

岐阜大学夏期短期留学 サマースクール2007



LUND UNIV.



SEOUL NATIONAL UNIV.
OF TECHNOLOGY



GRIFFITH UNIV.



GIFU UNIV. SUMMER SCHOOL

Gifu University

SUMMER SCHOOL 2007 REPORT CONTENTS

巻頭言

.....	1
-------	---

第一部 夏期短期留学(受入)

プログラムと日程.....	2
日本語の授業.....	5
日本事情講義.....	7
エクスカージョン.....	11
国際理解教育.....	15
岐大生との交流プログラム.....	16
夏期短期留学参加生名簿.....	17
ホームステイファミリー.....	18
宿舎チューター.....	21
宿舎チューター名簿.....	25
私の心に残るこの一枚.....	26
まとめの会とアンケート集計結果報告.....	34

第二部 夏期短期留学(派遣)

グリフィス大学.....	40
短期留学(サマースクール)参加者アンケート.....	57
岐阜大学夏期短期留学(サマースクール)担当者一覧.....	64

高等教育機関の使命は教育と研究であり、岐阜大学にあってもそこに集中していることは自明の理である。しかし、教養教育として位置づけがなされている全学共通教育にあっても全学体制下で実施されているシステムはどんな機能を果たしているのか、高等教育における教養面からの人格形成に向かって終始一貫した岐阜大学イズムは宿っているのか。そんなことを考えつつ、サマースクールの近未来に向けて新たな思いに至っている。国際社会の中での日本を見渡して見たい。日本社会の年齢構成や少子化などといった構造変化に即した対応が緊急の急務である中で、今後20年間で、40から100万人の留學生の受け入れと約400から500万人の外国人労働者の必要性が産官から叫ばれている。今まで以上に大学にあっては、これら留學生教育や外国人家族への言語・文化・歴史・慣習など各種の相似と相違の中から共同社会を構成し相互の異文化国際理解を深めるための共同作業が必定である。その中にあっては幼児から大人に至る教育・社会保障・労働・人権・精神医療などきめ細かい政策が求められる。この様なかで、岐阜大学全学体制の名の下でのサマースクールはどうであったのか。また、その使命は達成されたのかあるいは発展的にあるのか停滞気味にあるのか。岐阜大学には、年間約430から480名の外国人留學生が学んでいる。その殆どは、比較的個々の教育研究に勤しみそれなりの成果を挙げて帰国している。その中には大学間協定などに基づく交換留學生も含まれる。一方、サマースクールにあっては Rund 大学あるいはソウル産業大学といった国や大学といった組織的スケールの大きさを覚えるのは筆者の狭量によるのだろうか。岐阜大学留學生センター (International Student Center) は国際社会の発達に貢献することを企図して、「留學生」交流の推進に永年情熱を傾けてきている。留學生交流の意義として考えられることとして、1) わが国と母国との架け橋として、両国の友好信頼関係の構築、発展に寄与する、2) わが国の教育研究の活性化および地域社会の国際化を促す及び3) 発展途上国の人材養成に寄与することなどを挙げる事が出来る。

当該留學生センターを主体にして実施された「岐阜大学夏期短期留学／サマースクール2007」は、極めて興味あるプログラムを包含していると自負できるものであった。即ち、国際理解・国際交流に不可欠な教育、学術、スポーツおよび文化・芸術といった分野が短期留学中にきめ細かく周到に用意された事業であったからである。

今回のサマースクール事業が、Rund 大学 (ス

ウェーデン) およびソウル産業大学 (韓国) の留學生を魅了した理由は学生個々の感性の相違により多岐に亘るが、以下の点はその源泉のように思われる。先ずは、学長・理事・はじめセンター教職員各位が、留學生の学習意欲を助長させる為に、日本語・日本事情レベルの向上とわが国における歴史や文化への理解に率先したこと、また、日本語や英語を介して国際社会が直面する重要課題への認識とその解決策を相互に模索することにより、発想力豊かな人間形成の育成に勤しんだことなどが挙げることが出来る。次いで、特筆すべきことは岐阜県郡上市と郡上八幡国際交流友好協会の協力を得て、日本の風土に適した家屋と日常生活・歴史に根ざした郡上踊りとその体験や茶道、書道および禅の「こころ」世界への誘いなどの後、彼らが待ちに待ったホームステイによる体験型プログラムが組み込まれていることである。異国や異文化世界に育った者同士が、国を超えた人と人の繋がりや運命的出会いと愛しさを相互に感じあったことであろう。留學生センターでは、留學生と地域住民との国際交流活動への積極的な支援活動を展開している。更に、岐阜大生チューターと留學生とが寝食を共にしたこのサマースクール中の交流中の出来事は、言葉ではとても言い表せないほどのドラマとハプニングの数々であり、その体験と難局を乗り切った自信は両者の信頼と英知となり、今後変ることのないお互いの絆と人格形成に多大の成果を収めたことが類推できる。

岐阜大学におけるサマースクール・プログラムや様々な異文化体験を生かして、母国とわが国の架け橋となってくれることを切に願っている。

留學生センターでは、留學生に対する日本語教育・日本事情、生活指導、学内の国際化推進、地域との交流事業等を積極的に進めている。近年の急速な留學生の増加にも柔軟に対応し、学生の多様な教育・研究環境に応じた良質な支援を行っている。今後とも引き続き、留學生の日本語教育・生活指導支援に取り組んで行くので、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げたい。



第一部 夏期短期留学(受入)

プログラムと日程

留学生センター・教授 森田 晃一

「岐阜大学サマースクール」(以下、サマースクールと称する)は、留学生交流委員会が運営する全学行事である。しかし、従来からの経緯もあって、その実施については、留学生センターが留学生課の全面的な協力を得ながら行っている。今年度も例年どおり、6・7月の2か月間にわたってサマースクールを実施した。

サマースクール参加校は、スウェーデン・ルンド大学と韓国・ソウル産業大学の2校であった。ルンド大学は、例年どおりの8週間コース(6月4日～7月31日)だったが、ソウル産業大学は、昨年の「まとめの会」の折に「3週間は短いので、もう1週間延長してほしい」という要望があったため、ソウル産業大学との間で調整を行い、今年度は4週間コース(6月27日～7月31日)とした。今年度の参加者は、ルンド大学から15名、ソウル産業大学から6名だったので、昨年度と比べて、ルンド大学は2名、ソウル産業大学1名、それぞれ増加した。

例年サマースクールの期間中は、①日本語授業、②日本事情講義、③見学・実習、④エクスカージョンの4つを柱に、歓迎会・岐大生との交流会・まとめの会・歓送会等々が行われるが、今年度は、昨年度に引き続き、地域科学部と共同で国際理解授業を行い、また新たに、応用生物科学部と交流会を持った。

日本語の授業は、毎週月曜日から木曜日まで、午前中に2コマ(90分×2)ずつ行った。8週間コースの学生たちは、日本語レベルにさほどレベル差がなかったため、A・Bの2クラスに分けて同内容の授業を実施した。4週間コースの学生たちについては、来日後にレベルチェックを行った結果、8週間コースで設けたA・Bクラスに入ることに問題は生じない、と判断されたので、3名ずつに分けてA・Bクラスに編入した。使用テキストは、日本語を担当する教員が慎重に検討した上で決定しているが、今年度は昨年度と同じテキストを採用することになった。授業担当教員は、授業に関してメールで情報交換し、学生たちの様子、進度などを確認しながら授業を進めた。

日本事情の講義は、例年どおり7回実施した。見学・実習とエクスカージョンに関連した内容が主となるが、今年度は、武脇義「日本人の誠実さ・やさしさ・美しさ」、梅村将夫「日本の経済の最近の動向」、

味方團・田茂井廣道「能の実演」、山口耕道・茂山良暢「狂言の実演」、黒木登志夫「日本の陶芸」、橋本慎吾「相撲」、森田晃一「岐阜の文化」であった。この内、武脇氏の講義は、今年度新たに、本学の付属施設である位山演習林に泊まり込んで、日本の自然環境に親しみつつ行ったものである。また、「能の実演」は毎年大好評であるが、今回はあわせて「狂言の実演」を企画し、京都の茂山忠三郎家から山口耕道・茂山良暢両氏に出講を依頼し、能と同様、本物の芸を身近で堪能してもらった。その迫力は圧倒的で、学生たちは大いに楽しんでいった。

見学・実習では、まず、上記の位山演習林に行った折に、飛騨の白川郷まで足を伸ばして合掌造りの家々を見学し、世界文化遺産にも登録されている伝統的な日本の家並みについて理解を深めた。また、昨年度は陶芸体験を「ボイスオブセラミックス」「文化工房ギャラリーボイス」で行ったが、作陶と



絵付けの場所が別々だったため、時間配分に問題を生じてしまった。その反省のもとに、今年度は作陶と

絵付けが同時に両方できる「どんぶり会館」に移して実施した。大相撲見学は、見学席が土俵から遠いため、あるいは不満が出るかと心配したが、例年同様に好評であった。

エクスカージョンは、今年も郡上と京都の2か所に行った。とくに、郡上行は学生たちに深い印象を残したようである。

郡上へのエクスカージョンは、今年度も郡上市および郡上八幡国際友好協会の全面的な協力によって行われた。学生たちは、3泊4日の日程で郡上市内にホームステイした。初日は、到着後にまず、書道・郡上踊り・紙細工などの講座を体験、郡上踊りを通じて市内の小学生たちと交流した。その様子は、新聞にも取り上げられた。夜は、地元の人々との交流会があり、その終了後に、それぞれホストファミリーの家へと向かった。翌日は、午前中に座禅・茶道を体験し、午後はフリータイムであった。3日目は、終日ホストファミリーと過ごす日であり、ホストファミリーの計画に従って学生たちはさまざまな体験を持った。最終日の評価会では、ホストファミリー側と学生たちの感想が次々に披露されたが、披露の途中、胸がいっぱいになったのか、涙声になったり、詰まったりと、4日間の密度濃い交流を伺うことができた。



京都へのエクスカージョンは、今年度も伝統的な建造物を組み合わせて見学場所を設定したが、昨年度の反省を踏まえて若干の変更を行った。初日は、まず清水寺を見学してから昼食をとり、午後は銀閣寺・金閣寺・龍安寺を見て、宿泊するホテルに入った。2日目は、二条城を見てから摺型友禅染の体験をし、初めての試みだったが、いったん解散して学生たちに自由行動の時間を与えてみた。すぐに岐阜へ戻る者のために、午後4時に清水寺にバスを回したが、一方、続けて京都周辺を見学する者は、バスに乗らず、自力で岐阜に戻ることにした。フリー・タイムの設定と京都での解散は初めてのこ

となので、安全面で心配したのだが、何事もなく無事に学生たちは岐阜に戻り、この試みは好評だった。



サマースクールの期間中、学生たちは大学の学外研修施設を宿舎として利用している。今年も、ボランティアの岐大生チューター12名が常時3名ずつ泊まり込んで、参加学生たちの世話をしつつ、学生同士で互いに交流を行った。今回の学生たちも、チューターの存在をきわめて高く評価していた。サマースクールが好評である要因の一つは、チューターの存在による、と言っても過言ではないと、何時もながらではあるが強く感じた。今年度も、継続してチューターを務めてくれた1名が学生表彰の対象となり、その栄誉を担った。ところで、学外研から大学へは約7キロの道程があり、期間中学生たちはその道程を自転車で通うことになるが、今年度は、自動車対自転車、自転車対自転車などの交通事故が数件起こった。幸いにも怪我は軽く、関係者一同は胸をなで下ろしたのだが、その対策は、来年度の課題として取り組まねばならないことである。

最終日の歓送会には、大学関係者のほか、郡上市からもホストファミリーが大勢駆けつけてくれた。会場内の各所では、あちこちで心温まる光景が展開した。このパーティは、関係者一同にとって、ホッと安堵するイベントであるとともに、来年への活力をもらう機会でもある。



日本語の授業

留学生センター・准教授 橋本 慎吾



サマースクールに参加する学生たちはどんな目的でこのプログラムに参加するのであろうか。主な目的は、日本の文化に直に触れたり、いろいろな場所に行ったりすることであろう。また日本語を学びたいと考えている学生もいる。このニーズに対応するために、月曜から木曜の午前中、日本語授業を開講している。1日3時間、25日間の授業を開講しており、短期間ながらそれなりの分量を提供することができていると思う。

今年度の日本語授業は、学生の日本語レベルが事前にわからなかったが、概ね昨年と同じ程度であろうと判断し、教科書は昨年同様『中級へ行こう』（スリーエー・ネットワーク）を使用した。この教科書は、初級文法を使いこなすことを主眼に編まれたものであり、また内容もコンパクトなので、サマースクールのような短期集中コースに合った教材

である。ただ教科書だけでは読解、文法ともに物足りないのが、昨年、一昨年とサマースクールの非常勤を担当いただいた先生方と協力し、また岐大の日本語研修コースの先生方にも協力いただき、文法補助教材と読解補助教材を作成し、合わせて使用した。この教材は、今年度中に冊子化し、来年度以降も使用していきたいと考えている。

今年度も2クラスを用意した。各学生の日本語レベルが事前にわからなかったのが、クラス分けは事前に届いていた名簿で、機械的に分けた。来日後、学生の日本語レベルに差があることがわかった。非常にできる学生がいる一方、ほとんどしゃべれない学生もいた。それを知らずに行なったクラス分けは、偶然にも同じようなレベル構成になった。全体的には昨年度の学生より全般的に高い日本語能力を持っていて、授業では文型や内容を複雑にして与え

たり、自由発話の機会を増やすなど、多少の授業コントロールが必要だった。もう少しレベルの高い教材でもついていけたと思われる。しかし、日本語授業はサマースクールのイベントの1つであり、日本語ばかりをやっているわけでもない(むしろ日本語以外のところをメインにしている学生が多い)、あまり難しい教材はこのプログラムには不向きであろう。教材選びは難しいところである。ただせっかく2クラスあるのだから、来年以降は、学生のレベルによってクラスを分けることを考える必要があると思う。

6月の終わりに、今年度から4週間コースになったソウル産業大学の学生6名が加わった。こちらも事前の名簿で、同姓の学生が同じクラスにならないようにだけ配慮してクラスを2つに分けた。ソウルの学生のうち、2名はかなり日本語能力が高かった(うち1名はほぼ独学で学んだと言っていた。なんでも、日本のマンガやアニメが好きだとか。そういう生の教材から高いレベルの日本語を独学で習得する学生が出てきたということである)ので、できる学生には『中級へ行こう』は多少易しい内容ではあったが、学生たちは文法項目以外のところで質問したり文作したりして、意欲的に授業に参加してく

れた。

例年暑い時期に行なわれるこのプログラムは、暑さとの戦いがポイントの1つであるが、今年度は会議にも使用する部屋を借りることができ、快適に過ごすことができた。しかし今年は暑いことに加え、連日の雨(台風も来た)で湿度が高く、日本の夏に慣れていない学生たちには過ごしにくい日々が続いたと思う。疲れもたまっていたのであろう、欠席が目立った。また、期間中の住居である学外研修施設は大学からかなり離れたところにあるが、学生たちは自転車を走らせ、授業に参加する。その途中で交通事故にあってしまった学生もいて(幸い大きな事故にはならなかった)、いろいろ大変だったようだ。しかし全体的には真面目で、クラスでの取り組みもよかった。授業中、日本のアニメや武道の話を一生懸命してくれる彼らを見て、この学生たちは本当に日本を好きでいてくれるのだと嬉しい気持ちになったものである。この授業が学生の日本語学習の一助になっていれば幸いである。

担当講師(50音順)

加藤由紀子・河合瑞恵・橋本慎吾・宮谷敦美・
三輪郁子・六郷明美



日本事情講義

日本事情講義 1

日本人の誠実さ・ やさしさ・美しさ

留学生センター・センター長 武脇 義

日本の伝統・文化から日本人のこころの一端が学生諸子に理解されることを願って企画しました。日本人が何気なく行っている習慣や伝統について、その由来や本来もっている意味などについて調べてみると日本人が大切にしてきた感覚や考えが生きてくるように思います。日本人の根源的なものには、四季の変化に富んだ日本の気候によって生まれた自然や先祖を敬い感謝する心があり、それは「神と仏の共存」や「お盆」などに代表されます。また、日本人の自然の流れや時を大切にする心や言葉に対する細やかな心遣いなどについても考察してみたいと思いました。



日本事情講義 2

能の実演

留学生センター・准教授 土谷 桃子

観世流シテ方味方團先生・田茂井廣道先生による岐阜大学サマースクールの能の実演講義も、今回で3回目となった。前回までは、学外のホテルで舞台付きの大部屋を借りて講義を行っていたが、今回は大学内施設の柳戸会館にある32畳の和



室を利用した。舞台がなく、部屋が狭いことが少々心配であったが、結果的にはそれもプラスに作用した素晴らしい講義となった。

まず初めに、味方先生による「石橋」の舞が披露された。学生たちは目前に展開される迫力満点の舞に圧倒された様子であった。次に、田茂井先生が650年の能の歴史と、芸術の極みとしての能の特徴を簡潔に説明され、引き続き味方先生による能面の紹介へと進んだ。学生たちは、若い女性から年齢を重ねた女性へ、そして嫉妬に狂い鬼となった女性へという変化を示す面を1つ1つ舐めるように見入っていた。「高砂」を用いた謡の実習(田茂井先生)、喜怒哀楽を示す所作の実習(味方先生)で、ますます学生たちは能の奥深さ、面白さを感じたことと思う。そして、学生代表のウリカさんが、先生方の鮮やかな着付けの手さばきにより、美しい能装束を身

に纏い華麗な変身を遂げた。至近距離でこのような貴重な伝統芸術を見られた学生たちは、毎年のことながら、なんと幸運な人々であろうかと自画自賛ながら感じてしまう。美しいウリカさんとともに何枚も写真を撮った後講義は終了したが、道具や衣装を片付けている先生方のそばに学生は張り付いたまま、先生方を質問攻めにしていた。先生方には大変申し訳なかったが、それだけ学生たちがこの講義を喜んでくれた証ではないかと思ひ、大変嬉しく感じたのも担当者として正直なところである。

当初懸念していた会場の狭さについては、それがかえって先生方と学生の距離を近づけ、ライブ感たっぷり、迫力満点の講義となったということで、決して昨年までの会場に劣るものではなかったと言える。また、今回初めての試みとして、2年前にサマースクールに参加し、現在日本語・日本文化研修留学生として岐阜大学に再度留学しているルンド大学の学生に、先生方の日本語が難しかった場合のスウェーデン語への通訳を依頼した。日本事情講義に通訳を入れることには賛否両論あろうが、学生の消化不良を防ぎ、より深い理解が可能になったのも事実である。是非来年度も能の実演をお願いしたいと考えている。今年度の反省を踏まえ、よりよいものが提供できればと念願している。



日本事情講義 3

日本経済の最近の動向

岐阜大学・理事 梅村 将夫



若き学生は歴史より現在の動向に関心があると思う、今回は日本経済の最近の動向を中心に講義をした。1990年代のバブル崩壊から、その後の大不況、そして不況からの回復を先ず話した。そして、現在に日本が直面する問題、グローバリゼーション、政府の過剰債務、弱い円為替相場などを説明した。学生達の態度からすると、昨年より良く理解してくれたように感じた。一方、学生の持つ雰囲気はより日本の学生と似てきているように思った。すなわち、関心がより表面的なものと感じた。歓迎会における彼らの自己紹介で多くの学生の趣味が「アニメ」と言ったことに起因するのであろうか。

日本事情講義 4

日本の芸能とスポーツ

～相撲の歴史とルール～

留学生センター・准教授 橋本 慎吾

毎年、相撲の歴史やルール、番付の仕組みなどについて講義をしている。相撲に対する関心が高いのは毎年のことだが、今年は武道をたしなむ学生が多かったこともあり、その関心が一段と高かったように思う。折りしもモンゴル出身の白鵬が横綱になったばかりで、外国人力士の台頭について説明したところ、学生たちも驚いていた。また、今年の講義では、韓国ソウル産大の学生が教室の最前列を陣取り、説明の一言一言に「おー!」「わー!」と歓声を上げたので、講義がやりやすかった。後で聞いてみたら、自分たちも話を聞いてもらったときに「おー!」と言われて嬉しかったから、サマースタールの講義では努めて声を出すようにしようと皆で話し合ったとのことだった。



日本事情講義 5

狂言の実演

大蔵流狂言方 山口 耕道

能楽堂で狂言を見るのも一つの接し方ではあろうが、今回は、私達がどのような稽古をして、舞台に臨むかを見ていただき、狂言に接してもらおうと考えた。科学的なトレーニングではなく、繰り返し繰り返し、謡を謡い、舞を舞うことで、狂言師としての、声、足の運び方、立ち居、姿勢を作り上げて行くことを伝えたい。これが連綿と続いてきた稽古法であり、また後も変わらず続いて行くであろうと思うからである。

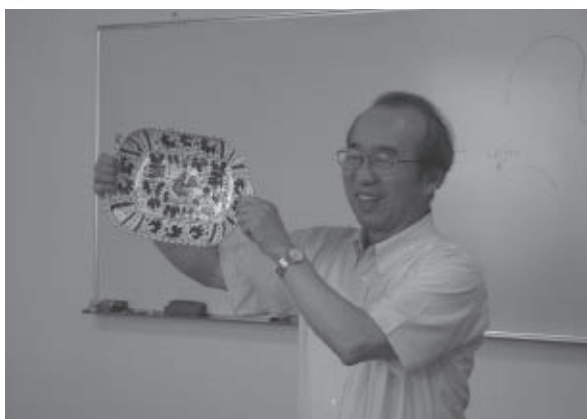
留学生達には、常の稽古場と同じように、同僚の茂山良暢氏と二人で、謡「盃」と狂言セリフを口移して教え、最後に狂言「仏師」を見ていただいた。



日本事情講義 6

日本の陶芸

岐阜大学・学長 黒木登志夫



土岐に陶芸の実地見学と実習に行くのに先立って、簡単な陶芸について説明を行った。実習では、ノルウェー、イタリア、中国、韓国、日本の陶芸（備前、萩、美濃焼き、それに自作作品など）を実際に触れて見てもらい、その違いを実感してもらった。

簡単な陶芸の原理、焼成の温度（素焼き、700～800度；本焼き、1200～1250度）、酸化焼成と還元焼成のときの化学変化と色の変化などを説明した。さらに、縄文式土器から今日のセラミック工学にいたる発展についても話を進めた。最後に、質疑応答の時間を取った。



日本事情講義 7

岐阜の文化

留学生センター・教授 森田 晃一

岐阜県の文化的な特徴について講義した。あわせて、翌々日から始まる「郡上プログラム」（サマースクールの期間中に、郡上市・郡上八幡国際友好協会の全面的な協力で実施される、日本文化研修とホームステイ）の参考になるように、と意図した。

内容は、①岐阜県郡上市について一郡上踊りの歴史から一、②岐阜の伝統技術—岐阜和傘の製作—であった。

まず、広大な市域を有する郡上市が、岐阜県の真ん中に位置する都市で、市内を清らかな吉田川・小駄良川が流れ、落ち着いた佇まいを見せる城下町であること、毎年夏に代表的な盆踊りの一つである郡上踊り（国の重要無形民俗文化財）が催されることなどを、ビデオを見せながら説明した。

また、「飛山濃水」といわれる岐阜県の特徴と、岐阜県の伝統産業に和紙・漆芸があり、木工業なども盛んであること、それらの代表例として和傘を取り上げ、ビデオを見せながら説明した。



エクスカーション

位山演習林合宿研修

留学生センター・准教授

土谷 桃子



武協留学生センター長の発案により、今年度初めての試みとして、応用生物科学部附属岐阜フィールド科学研究センター位山演習林の宿泊所にて、6月15日(金)から17日(日)に2泊3日の合宿研修を行った。この合宿研修は、岐阜という地に短期留学している学生に、岐阜ならではの歴史と文化を感じてもらうことを目的としている。そのため、位山演習林にて自然を満喫するだけでなく、白川郷(15日)や高山(17日)にも足を伸ばす行程を組んだ。白川郷及び高山での行動は各学生の自由とし、皆思い思いに散策や見学を楽しんだ。

幸い2泊3日の期間中天候にほぼ恵まれ、バーベキューパーティー、山歩き、花火といった屋外活動が可能であった。屋内では、囲碁好きの学生が碁盤

と碁石があるのを見つけ、食堂で即席の囲碁教室が開かれることになり、新たに囲碁の魅力に目を開かれた学生がいたのが合宿の副産物(?)である。また、16日午後には武協留学生センター長による日本事情講義「日本人の誠実さ・やさしさ・美しさ」が行われ、合宿研修の名に相応しい学習の場ともなった。その他に、朝食用のおにぎり作り、鍋に溢れんばかりのカレーの晩ご飯、といった普段ではなかなか味わえない経験もできたのではないかと思う。

位山演習林は、交通が便利なところとは言い難く、車がなければ食材を調達することも不可能である。また、今回は初めての試みであり、なおかつ事前のプランニングが不十分であったことから、現地での様々な対応に手間取ったのも事実である。学生からのフィードバックを踏まえ、今後冷静に分析と反省を行う必要があると考えている。



陶芸体験

応用生物科学部・講師

芳村 了一

7月6日の晴れた日の12時30分、参加学生26名(日本語・日本文化研修留学生6名を含む)を乗せたバスに引率2名が同乗して、美濃インター、土岐南多治見インターを経由して土岐市のどんぶり会館に向かった。学生をA班とB班の2班に分けて、それぞれロクロ体験と絵付け体験をした。学生は指導員の指導を受けて、1人、1人電動ロクロに向かって作品を作り、また、見本の作品に思い思いに絵付けをした。指導員の説明も、バス車内の説明も日本語だったが、十分通用しており、外国人学生の日本語習得の早さに感銘した。昨年の陶芸体験は多治見市で行ない、ロクロ体験と絵付け体験を別々の場所でしたが、今年は両方の体験を一箇所でできて良かった。もう1人の引率は留学生課の吉川優子さん、ほかに山田課長と粥川課長補佐が連絡調整のため同行した。なお、学長も行かれるということで、留学生センターの森田教授も同行したが、あいにく都合がつかず学長は見えなかった。



大相撲名古屋場所

地域科学部・准教授

笠井 千勢

2007年7月9日、サマースタールの留学生達と大相撲名古屋場所を観戦した。会場中を慌しく動き回る関係者は皆独特の衣装をまとい、取り組みを呼び上げる場内アナウンスが流れている情景は、私だけではなく留学生の目にも新鮮に映ったのではないだろうか。



中入り少し手前から観戦したのだが、皆ほとんど席を立つことなく真剣に土俵を見つめていた。パンフレットを購入し、番付表と照らし合わせ力士の顔を見比べる者、『内モンゴル出身』というアナウンスを聞き、外国からやってきた力士に声援を送る者、力士が投げ倒されるたびに悲鳴を上げる者、様々であった。

観戦中も観戦後も多くの質問を受けた。懸賞金はいくらなのか、相手の顔をパンパンとはたくのは違反にならないのか、国技である相撲に外国人力士が参加することは嫌ではないか、などなど。残念ながら私には的確に答えられる知識がなく大変申し訳なく思った。

来年に向けての提案として、会場ボランティアのような方についていただき質問に答えていただくことはできないだろうか。また、出発前に明示的に夕食に相当する食べ物、飲み物を持参することを参加者に伝えた方がいいと思う。岐阜に戻ってくるのは20時である。会場ではお弁当類は全て売り切れており、空腹を感じても食事に相当する食べ物を買うことができなかった。前方の升席ではお弁当を広げ飲食を楽しむ光景が見られ、相撲観戦らしさをかもし出していた。留学生にもそんな観戦をしてもらいたい。

郡 上

郡上八幡国際友好協会・会長
鷺見 幸彦

踊りの季節の到来とともに岐阜大学の留学生が訪れるようになって12年になります。今年も20名の Lund 大学とソウル産業大学の学生が郡上市で3泊4日のエクスカージョンに参加しました。



郡上八幡は田舎町ですが、豊かな山々に抱かれ清らかな水に育まれた城下町であり、町屋や水船など古き日本の面影を残しています。学生たちは、ここでのホームステイを通し日本の文化や生活の一端を知ると共に、民族や国家、文化や宗教の壁を超えた心のふれあいを体験します。

さて初日は、書道体験からです。各自があらかじめ選んだ漢字を練習し最後は色紙に仕上げます。いつものことながら個性ある漢字選択と字義を表現した書きぶりには驚かされます。午後は八幡小学校高学年児童との交流から始まりました。郡上踊りを地元の子供達と小グループの輪になって踊りながら教わり、交流しました。その後は遊童館での紙細工体験。童心にかえったような笑顔が素敵でした。夜の歓迎会では、対面前の緊張感と、ホストファミリーとテーブルついてからの和やかさが印象的です。

翌朝は、城山の中腹にある座禅会場までホスト家庭が送って来てくれました。朝の清々しさの中、真



剣に坐禅を組みます。山を下り茶道会場の和室に移動。茶の文化・歴史についての簡単な講義を受け、各自お抹茶を



たてふるまいあいます。神妙な面持ちで「おいしいです。」と言ってくれました。

午後からは翌々日までホストファミリーとの時間です。昨年は「川で泳ぎたかった」との意見が多く出たほどの猛暑、一転して今年は台風の来襲で心配しました。皆さんの心が通じたのでしょうか。翌日曜日は早朝から晴れて予定通り楽しく過ごせたようです。

最後の日、評価会で留学生もホストファミリーも一人一人に感想を言っていました。すっかり溶け込み両者が楽しく過ごし心を通わせたさまが伝わります。笑顔あり、別れの涙あり、もっといてほしい、もっといたいとの声も多くありました。私どもボランティアスタッフにとっても嬉しい一時でした。ホストファミリーの皆様に改めてお礼申し上げます。また岐阜大学留学生センターの皆様、来年もよろしくお願ひします。



留学生の皆さん、「いつでもええで郡上の家に帰って来とくれ！」

京都研修旅行

教育学部・准教授
柳沼 良太

2007年7月19日(木)から20日(金)の2日間にかけて、岐阜大学サマースクールの一環として京都旅行が行われた。参加者は、引率者2名をはじめ、ルンド大学からの学生15名、ソウル産業大学からの学生6名であった。出発時の岐阜は小雨がちらついていたが、京都に着いてからは汗ばむほど快晴がつづき、京都の風光明媚な自然を眺望しながら、伝統ある寺社や仏閣を存分に見学することができた。

初日は、昼頃に現地に着き、清水寺門前の梅山堂

でそうめん御膳を食べ、その後で清水寺、銀閣寺、金閣寺、竜安寺を順に観て回った。参加した学生たちは両校とも仲よく交流し、日本語で楽しげに語り合ったり写真を撮ったりしていた。京都については学生たちも事前に学習していたようで、寺社の歴史や文化的背景については専門的な議論も飛び交っていた。バスの中では観光に詳しいガイドさんが京都談義をして大いに盛り上げてくれた。

翌日は、二条城を見学した後、京都伝統産業ふれあい館で摺型友禅染体験を行った。学生たちは初めての友禅染で独創的な模様をタオルやTシャツに描き、日本文化を堪能したようだった。その後3時間ほどの自由時間では各自が買い物や観光をして満喫していた。楽しい観光や体験学習を通して文化的教養を深められた点で、意義ある京都旅行だったように思う。



国際理解教育

留学生センター・講師 宮谷 敦美

今年の国際理解授業は、6月20日に実施しました。岐阜大学地域科学部の日本人学生16名と、 Lund大学の学生14名、計30名が参加しました。

4～5名のグループに分かれた後、「私」をテーマにしたイメージマップを5分ほどで書き上げ、それをグループメンバーに見せながら互いに自己紹介をして、ウォーミングアップをしました。そのあと、「日本らしいもの」というテーマで撮影した12枚の写真を見ながら、それぞれ日本人、外国人のどちらが撮ったものか、ディスカッションしてもらい

ました。また、写真を通して自分たちが考える「日本らしさ」を具体的にしていく作業をしました。このことを通して、日本人の学生には「日本人が気づかない意外な日本らしさ」、留学生には「日本人の考える日本らしさ」、またステレオタイプだけでは語れない、「個々の経験に基づいた日本らしさ」があることにも気づいたようでした。最後にグループごとに発表をし、それに対して意見を述べあいました。積極的に参加してくれたみなさんに感謝します。



岐大生との交流プログラム

教育学部1年 依田 芽生

6月30日に行われた、サマースクール生と岐阜大学生との交流会。韓国からのサマースクール生の歓迎会、ウェルカムパーティーも合同で行われました。このパーティーはチューターが主催ということもあり、前日から料理や飾り付け等、サマスク生、また参加してくれる岐阜大学生に喜んでもらえるよう、チューター全員で趣向を凝らして準備を行いました。結果、料理は日本食がメインだったということもあり、サマスク生にとっては初めて食べるものが多かったようで、非常に喜んでもらうことが出来ました。パーティーではゲーム等も行い、その場にいる全員が楽しんでくれたことと思います。全体的に良い雰囲気で終えることが出来、さらに韓国からのサマスク生にとってはチューター以外の岐阜大学生との交流は初めてだったと思いますので、このパー

ティーは岐阜大学での生活を楽しむ第一歩になったのではないかと思います。

私自身は、30日以前にもチューターとして学外研に宿泊していたので韓国からのサマスク生とはある程度仲良くなっていましたが、このパーティーを通じてより一層打ち解けることができたと思います。また、スウェーデンからのサマスク生ともさらに仲良くなる事が出来、この日を境に一緒に名古屋城の観光をしたり、買い物に出掛けたりするようになりました。サマスク生ともチューターとも以前よりも仲良くなれたこと、絆を深められたことは私にとって非常に大きな出来事でした。チューターとして過ごした2ヵ月間の中でもこの日は私にとって特別な日です。



夏期短期留学参加生名簿

No.	氏名	性別	大学
1	ポストス アンデルソン レナルト Pontus Andersson Lennart	男	ルンド大学
2	ヤコブ フェルム ミカエル Jacob Ferm Mikael	男	ルンド大学
3	エリカ ホフマン シャーロット Erika Hoffman Charlotte	女	ルンド大学
4	ウリカ ホルンベリ ヘレナ Ulrika Holmberg Helena	女	ルンド大学
5	マルティン カルソン ブロル Martin Karlsson Bror	男	ルンド大学
6	フレドリック リンド ハカン Fredrik Lindh Hakan	男	ルンド大学
7	フレドリック ノルドマルク スティグ Fredriq Nordmark Stig	男	ルンド大学
8	キム ベルソン アルクサンデル Kim Persson Alexander	男	ルンド大学
9	ニクラス ベルソン カル Niklas Persson Karl	男	ルンド大学
10	アレクサンデル ペテルソン ヨナス Alexander Petersson Jonas	男	ルンド大学
11	アレ ポールソン ジョハン Ale Palsson Johan	男	ルンド大学

No.	氏名	性別	大学
12	サミュエル ロセニウス キム Samuel Rosenius Kim	男	ルンド大学
13	フィリップ スエンソン アンドレアス Philip Svensson Andreas	男	ルンド大学
14	オーサ ソーデルホルム クリスティーナ Asa Soderholm Kristina	女	ルンド大学
15	ニクラス ウッテルベック ラース エリック Niklas Utterback Lars, Eric	男	ルンド大学
16	キム キョンヒ Kim Kyunghee	女	ソウル産業大学
17	キム ソンミ Kim Seonmi	女	ソウル産業大学
18	パク ボヨン Park Boyeon	女	ソウル産業大学
19	パク ジニ Park Jini	女	ソウル産業大学
20	イ ユンホン Lee Yunhong	男	ソウル産業大学
21	チェ ドゥ ホ Choi Doo-ho	男	ソウル産業大学

ホームステイファミリー ～郡上から～

7月13日(金)から16日(月)まで、郡上市でエクスカージョンとホームステイを行いました(p.13参照)。現地でお世話になったホストファミリーの皆様が感想文を送っていただきました。

藤田正雄さん(郡上市八幡町)

今回、学生さんをお世話する事になり、ホストファミリーの経験はありましたが、久しぶりなので少しは緊張するところもありました。しかし、学生を迎えてみると以前の雰囲気と少しも変わらず、すんなりと家族として受け入れる事が出来ほっとしました。

これも、学生自身が日本語を勉強していて通常会話に支障の無い状況だったからと思います。また、彼女たち自身の性格もよく心から日本の文化を知ろうとする熱意を感じる場所があり何とか答えてやりたいと思いました。

今回初めて、韓国の学生さんをお世話しましたが、礼儀作法等が素晴らしく感心させられる場所があり、こちらが反省する事があり良い刺激を受けました。4日間の生活は彼女中心の事もありましたが、殆どが通常のペースを保つ事が出来無理なく過ごす事が出来ました。しかし、これで本当に良いのかは自分自身疑問ですが、郡上八幡は山紫水明にめぐまれており、郡上踊りを起爆剤として国際交流をするには恵まれた環境にあると思います。

彼女が「浴衣」を着たときは心からの笑顔がとっても印象深く感じ、受け入れて良かったなと思いました。また、私たちに積極的に話しかけてくれて、韓国の家族、習慣・文化等を知ることができました。

評価会の時に、期間の延長が話題になりました。4日間は短いかもしれませんが、名残惜しいところで終わりを迎えるのも大事ではないかなと思う場所もあります。

大事な子供を預かり娘がひょっこり遊びに返ってくれたような気分となり、何事もなく送り出せたことをうれしく思っております。

今ははっきりと穴が空いた空間を思い出話で埋めながら食卓を囲む毎日です。

&カムサハムニダ&

三輪利雄さん(郡上市和良町)

どんな学生が来るのか楽しみにしていました。初

めて会ったときびっくりしました。大きくてよく太っていました。彼女は日本語を上手に話しました。私たちがスウェーデンの国のことを色々質問しましたが、よく答えてくれました。

私の家には、中二、小六、小五の女の子が三人います。中二の子が英語が好きで一生懸命勉強しています。この機会に少しでも生の英会話ができればよいかと、その思いでホストファミリーを申し込んだのですが、恥ずかしいのかなかなか話せなくて残念でした。

簡単な英会話でいいから大学生のほうから話しかけて下さればありがたいと思いました。

武藤美香さん(郡上市八幡町)

今回、ホストファミリーを初めて受けさせていただきました。

小学生の頃からずっと受けたくて、17年経ってのホストファミリーがとても楽しみでした。家の大掃除からはじまり、どこへ連れて行ってあげるか考えたり・・・と来てくれる留学生のことを考え、とても楽しかったです。

留学生を迎える当日、うれしい反面、言葉はうまく伝わるのか、楽しんでもらえるだろうか・・・と少し不安もありました。

一日目、家族の紹介をしたり、(留学生)オーサの国、スウェーデンの話の聞いたりしました。スウェーデンからのおみやげも持ってきてくれ、みんな楽しんで話したりしました。スウェーデンという国を今まで調べたこともなく、どんな国なのか色々なことを質問したりして、とても興味津々でした。

私はオーサの国のことや、どうして日本という国を選んだのか、大学では何を学んでいるか、留学の目的など、聞きたいことをどんどん質問しました。辞書で調べながらの英語と、ゆっくり話す日本語と、今までにはない会話でした。

二日目、オーサと食料品を買いにスーパーへ出かけました。スウェーデンの料理を作ってくれるということで、とても楽しみにしていました。スウェー

デンの料理は初めてで、全てオーサが一人で作ってくれました。ミートボールを作ってくれ、みんなで食べました。とてもおいしく初めての味でした。二日目の夜も、スウェーデンの事をいろいろ聞いて楽しく過ごすことができました。

三日目、台風が来る予定でしたが、天気も良くなり暑くなりました。大滝鍾乳洞へ行き、魚釣りをやったり、焼肉を食べたりしました。帰ってからおみやげを買いに出かけ、オーサが欲しいと言っていた掛け軸を探しましたが見つかりませんでした。しかし気に入った下駄を買うことができ良かったです。夜は郡上踊りにでかけました。

四日目、お別れの日はとてもさみしい気持ちでいっぱいでした。

今回のホストファミリーでは数日間でしたが、今までにない思いや、体験をさせていただきました。言葉の大切さを知りました。言葉が伝わらず全然違う食事を食べたり、生活をしたりすることは、とても大変なことです。

しかし、言葉が通じないこともありながら、数日間はとても濃く、心から良い経験をさせていただいたと思います。オーサと出会えてとてもうれしい気持ちです。これからもメールをしたり、手紙を書いたりしたいです。そしてスウェーデンという国や、他の国の文化にもとても興味を持ちました。海外には以前から興味がありましたが、今回のことを体験し、海外に行きたい気持ちも大きくなりました。

そして普段は居間に家族みんなが集まることは少ないのですが、ホストファミリーを通じ色々話せたことも良い機会でした。今回の出会いや、色々や体験を大切にしていきたいです。本当に感謝しています。ありがとうございました。

山下良恵さん(郡上市明宝)

今年は他の予定があり、ホームステイを受けるのはどうしようかと悩んでいましたが、谷口さんに是非と声をかけていただき、二度目の受け入れをさせていただきました。子どもは当然受けるものと思っていたようで、お母さんは悩んでいたと話す、毎年受け入れをして欲しい！と怒られた程でした。

我が家には、スウェーデンのフレドリックという青年が来てくれました。歓迎会で紹介された時、目鼻口の中にまでピアスでびっくりしましたが、本当に子ども好きの優しい青年でした。子どもたちもすぐに懐き、初日の夜からフレドリックを三人の子ど

もが囲んで寝ていました。

今年は運悪く土曜日に台風が来るという事態のために、おどりが土曜日にできなくなったということもありましたが、鍾乳洞に行けました。予定していたバーベキューは出来なくなりましたが、日曜日は晴れたので家で流しそうめんをしたり、郡上おどりも行けてとても楽しく過ごすことができました。

フレドリックは、習字でも“酒”と書いていたくらい本当にお酒好きで、二日間三時過ぎまで飲んでいました。その飲み方とは、ウイスキーとビールを交互で飲むのですが、これはビールでウイスキーを薄めているのだそうです。

あつという間の三日間でしたが、何が一番楽しかったかと聞くと、子どもたちと遊んだことだそうです。とてもうれしかったです。その次が、日曜日に近所の子どもや友達を呼んでやった流しそうめんです。一瞬にして通り過ぎるそうめんを、なかなか取れなかったようですが、だんだん慣れ、たくさん食べていました。その後、花火や、夜の探検、郡上おどりと、私たちにとっても楽しい一日でした。

二十五日岐阜大学での送別会にも参加させていただき、再びフレドリックや他の留学生と再会しました。子どもたちは、フレドリックももちろんでしたが、他の留学生の皆ともすっかり仲良くなり、写真を撮ったり、お話をしたりととても楽しんでいました。

ある先生が、フレドリックに日本で何が一番楽しかったかと聞いたら、ホームステイと言っていたよと教えて下さいました。

今回は二回目ということで、私たちも楽に受け入れができ、多少部屋がちらかっている、まあいいかみたいな感じで特別お客様扱いをすることもなく、自然に受け入れられたと思います。私たち家族も皆楽しませてもらったのですが、フレドリックの思い出にも強く残ったことを、何よりもうれしく思います。

留学生の皆さんは、それぞれのホームステイ先でお世話になり、ありがとうという気持ちでいっぱいだと思いますが、受け入れる私たちもこんなステキな思い出をいただいて、ありがとうの気持ちでいっぱいです。(子どもも日記に書いていました)

昨年に比べると、語学力が全体的に上がっているように思いました。あと、昨年も感じたことですが、スウェーデンの人は優しいなと思いました。私たちも彼らからそんなことを学び、いつか再び会え

る日にむかって頑張っていきたいです。

ありがとうございました。

和田美和子さん(郡上市八幡町)

世界は広い、人生は一度きり、生きている間に色々な国を目で見たり、風習などを体験したいと子どもの頃から思い、大人になったら世界中を旅行したいと思っていました。

が、そんな夢はとうてい叶う事は出来ず、それなら我が家に来てもらおうと、勝手に決めたホストファミリー歴六年目。

我が家は仕事の関係もあって家族がそろうこともなく、ほとんど私一人でお世話させていただいています。良いか悪いかは別にして、思い切り郡上八幡を味わって、一般家庭を味わって、一生の思い出になってくれればと、毎度コースは同じ。郡上おどりはもちろん、スナックへ行って、お国の歌を歌ってもらうのが行事です。

毎回感じるのですが、たった四日間行動を共にするだけで、自分の子どもと変わりなく、人間は皆同じなんだと、そしてこの出会いは縁があったのものなんだと思えます。

この夏には昨年ホームステイをした一人が、休暇を利用して再び八幡を訪れてくれると連絡があり、会えるのをとても楽しみにしています。

また来年も元気でおりましたら、ぜひお受けしたいと思います。岐阜大学サマースクールの計画に、郡上八幡エクスカージョンがずっと続きますように。

宿舎チューター

友達

応用生物科学部3年 田中 亜依



「また、会おう」これは今年のチューターの合言葉です。私は、チューターをやらせていただいて今年で3年目になります。サマースクールは、毎年同じプログラムにも関わらず、毎年全く異なった出会いがあり、思い出があります。私はこのプログラムに参加するまでは、海外に行ったこともないし、ましてや日本人以外の人と話すことなんてありませんでした。1年目は、何を話していいかわからず、あたふたし楽しむことでいっぱいでしたが、3回目ともなると「よし！しゃべるぞ！」とひるむことなくしゃべることができるようにまじりました。もちろん日本語ですが。このサマースクールの醍醐味は、なんといってもパーティーとみんなとの夜の語り合いだと私は思っています。今年もたくさんの驚きがありました。私たちが知らない日本の武道を知っていたり、ビールを普段の飲み物にしていたり、ジブリが大好きで一緒に見たり、カボチャ

の色が緑色なのは日本だけだったり、スウェーデンでは2Lの水ペットボトルを持ち歩いたり、韓国の恋人とのペアリングは左の薬指にしたり、最後にやたらと荷物が入らなかったり、何より日本のことに私たち以上に興味があることは毎回驚きです。そして、それは非常に嬉しいです。今まで私が知らない世界をこのサマースクールはたくさん見せてくれました。それは時には難しいことであったりしますが、キラキラしていて今思い出だけでも口がにんまりしてきます。2ヶ月間があっという間に過ぎてしまい、今は寂しいです。きっかけは、たまたま受けていた授業の先生が留学生センターの方でお話を聞いたことから始まったのですが、今では私の大学生活の中でかけがえのないものになっています。このサマースクールのこともあって、私は今年アメリカにボランティアに行ってきます。また、大学生活中に必ず時間をつくって、海の向こうの韓国やス

ウェーデンの友達に会いに行きたいです。このプログラムに参加することで、私はいろいろな動く力をいただいたと思っています。それは、誰とでも臆することなく話すことであり、海外へ旅立つ一歩であり、人とのつながりに杵がないことであつたり。スウェーデンのみんな15人、韓国みんな6人、留学生課の方、先生方、サマースクールに関わつた全ての皆さんに、そしてチューターズに、言い切れないほどのありがとうを言いたいです。本当に楽しくて、幸せで、大切な時間をありがとうございました。



チューターをやつて

地域科学部2年 伏見奈緒子

今年初めてチューターをやつて、私にとってこの約2ヶ月間の生活は思っていた以上に貴重な体験となりました。スウェーデンという遠く離れた国から、日本に興味をもって来てくれたのだから、いろんなことを教えてあげたいとそんな思いで望みました。彼らは日本の音楽やアニメをよく知つていて、スウェーデンにも日本の文化が多く広まっていたことに驚きました。スウェーデンや韓国の学生と交流することで、外国から見た日本も知ることができ、料理に関しても豚肉がダメなどと文化の多様さを実感する機会にもなりました。

時には、サマスク生の事故や怪我、体調の変化など心配になることも多くありました。でも、彼らが

元気に過ごして、名古屋や郡上に行つたり、一緒に花火を見たりして日本でたくさんの楽しい思い出を作ってくれたらそれはチューターにとって何より嬉しいことです。会話を重ねていくと日に日に日本語が上手になるのを実感し、冗談も言い合えるような仲になれて本当に楽しく交流できました。このように良い毎日が過ごせたのも、チューターの先輩や先生方の支えがあつたからであり、とても感謝しています。お別れは寂しいですがここで出会えた仲間、そしてともに過ごした日々は私の宝物です。



サマスクチューターを終えて

応用生物科学部3年 加藤 友崇

去年に引き続き、サマースクールのチューターをするのは今回が2回目となりました。僕たちチューターは夏休みに入るまでの6月・7月の2ヶ月間、日本にやってきた留学生と生活を共にし、留学生の慣れない日本での滞在をお手伝いします。もちろんチューターをする理由には「留学生に日本をめぐってほしい。」という思いがあるわけですが、それと同時に僕たちチューター自身が夏休み以上に素敵な2ヶ月間を過ごすためという理由もあるのです。

チューターは今年で2回目という事もあり、留学生や他のチューターとともに過ごす時間を1秒でも多く噛みしめ、去年以上にめいっぱい楽しもうという気持ちがありました。自分を含め、日本人らしい控えめで奥ゆかしい性格を一切持たない陽気なチューターズ。日本人より日本が大好きな行動派留学生たち。おかげで今年もたくさんの心に残る思い出や一生の友達を作ることが出来ました。反面、楽しい時間ほど早く過ぎてしまうもの。みんなとの別れには2ヶ月間という時の流れの早さに大変な寂しさも感じました。

チューターを終えて1ヶ月、みんなで色々なパーティーを楽しんだ事、一面のホテルに感動した事、流れ星を探した事、追いかけ回したり回されたりした事、歌をうたった事、...、もう言葉には書き表すことができないほど、かけがえのない時間を過ごした日々。僕の心に深く刻まれた大切な思い出です。

僕らはきっと待ってる “君とまた会える日々を”
さくら並木の道の上で手を振り叫ぶよ。

どんなに苦しいときも君は笑っているから
挫けそうになりかけても頑張れる気がしたよ。
霞みゆく景色の中に、あの日の唄が聞こえる。

さくら さくら 今、咲き誇る
刹那に散りゆく 運命と知って
さらば友よ 旅立ちの刻
変わらないその思いを今

(思い出の唄：森山直太郎『さくら』)



チューターでの経験

応用生物科学部 1年 神田 優基

自分は今年初めてチューターとしてサマースクールに参加しました。参加を希望したのはせっかくの大学生活を有意義に過ごしたいという理由で、とにかく楽しかったの一言に尽きる2ヶ月だったと思います。学外研での生活は、一緒に卓球をしたり、ゲームをしたり、お酒を飲んだり、夜中遅くまで話をしたりと、学業との両立が難しかったですが、勉強ではできない経験をさせてもらいました。事故などの問題があったし、連絡待ちで眠れない夜を過ごしたこともありました。パーティーでは毎回のよう酔い潰れ、写真に撮られ、数々の恥をさらしてしまった気がしますが、それも今では良い思い出です。

留学生という異文化の人たちと一緒に生活していましたが、思ったより自分との違いを感じることもなく、コミュニケーションもしっかりとれていたと思います。またスウェーデンや韓国の様々な行事や暮らしなどの話を聞いていく間に、今まで考えていなかった留学というものに興味を持つようになりました。

留学生との交流だけでなく、サマスクを通してチューターやチューターOB、ほかの岐大生の方と関わったことも、自分に大きな影響を与えてもらえたと思います。このサマスクを通じて、多くの友人を作り、先輩と知り合い、また自分に変化を与え、大学生活をどう過ごすかということも考えることができました。

心の底からこのサマスクに関わられたことをうれしく思います。本当にありがとうございました。



宿舎チューター名簿

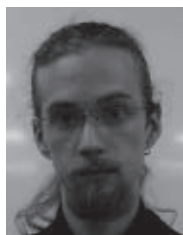
No.	氏名	所属学部等
1	井原 小百合	応用生物科学部生産環境科学課程 3年
2	太田 沙織	応用生物科学部食品生命科学課程 3年
3	加藤 友崇	応用生物科学部生産環境科学課程 3年
4	川嶋 久美子	教育学部生涯教育講座 3年
5	川田 里絵	応用生物科学部生産環境科学課程 3年
6	田中 亜依	応用生物科学部生産環境科学課程 3年

No.	氏名	所属学部等
7	森田 健介	工学部生命工学科 3年
8	中島 のぞみ	応用生物科学部獣医学課程 2年
9	伏見 奈緒子	地域科学部 2年
10	井戸 里奈	地域科学部 1年
11	神田 優基	応用生物科学部生産環境科学課程 1年
12	依田 芽生	教育学部生涯教育課程 1年

私の心に残るこの一枚

～サマースクール参加学生の見た日本～

サマースクールに参加した学生たちが書いた作文をご紹介します。彼らが「これが日本だ」と感じたものを写真に撮り、その説明をしています。彼らが体験した「日本」を彼ら自身の言葉で表現しています。留学生ならではの小さな日本文化論としてお読みください。



郡上魂

ポントス・アンデルソン



郡上八幡の思い出

ヤコブ・フェルム



この写真を見ると私の郡上で経験したことが簡単にわかると思います。郡上に住んでいる日本人もスウェーデンから来た留学生も、みんなで遊んで、笑っています。この写真を取ってもらった時、みんなは一緒に郡上踊りを踊っていました。

七月十三日に、スウェーデンと韓国の学生たちは郡上ホームステイしに行きました。ホームステイしたことがなかったから、私はとても緊張したんです。でも、ホームステイの家族と会ったら、すぐに安心しました。みんなはとても優しく、親切な人でした。

郡上に行っている間に、小学生に演説しました。私はこの時に「人の心は変わりません」と言いました。この写真を見るとそのことを思い出します。郡上踊りの経験は本当によかったです。来年は絶対に戻ってきます。

スウェーデンに帰って、このお守りを見たら、ホームステイの家族を思い出します。郡上のホームステイは日本のサマースクールの一番いい思い出です。私はホームステイの前にすごくきんちょうしていましたが、ホストファミリーはとてもやさしかったです。すぐに友達になりました。

家族と一緒に色々なきれいな場所に行ったり、おいしい食べ物を食べました。そして、家でゆっくり休んで話しました。

ホストファミリーの家におもしろい本がありました。千円札を使って、お金のおりがみの作り方を説明した本です。色々なおもしろいおりがみがありました。それで、私はこのかっこいいにんじやとダイバーをえらんで、作りました。このお守りはとても大切な物です。いつもさいふの中に持っています。





早い食べ物でしょう？

エリカ・ホフマン



私の心に残る一枚は郡上八幡のホームステイ家族と一緒に流しそうめんを食べた時にとった写真です。

その日山に私たちが登ったあとで流しそうめんの所を見つけました。

ホームステイのお母さんは「流しそうめんを食べましたか」と聞きました。私は食べた事がなかったからずっと食べてみたかったので、行きたいと言いました。お母さんも妹さんも初めて私がはしで食べるのをちょっとひにくっぽく見ていました。

でも、私がたくさんのそうめんをいっぱいつかまえたので、ホームステイの家族はとてもびっくりしました。同じ所でお母さんは私に鮎を注文してくれましたが、魚の顔があったので食べられませんでした。

郡上八幡の経験はいい思い出でだけありますから、もう一度行きたいです！



ネコバス

ウリカ・ホルンベリー

私の心に残るこの一枚は私と郡上八幡のホームステイファミリーの写真です。

土曜日私達は日本昭和村に行きました。初めに私はどんな所か、知りませんでした、「いい所だと

いいですね」と思っていました。着いた時、看板に「日本昭和村」と書いてありました。びっくりして、びっくりして、ゆかいな気持ちになりました。

その日本昭和村で色々なことをして、いい経験になりました。昭和時代の家を見たり、だんごを食べたりしました。それに急にお母さんがとなりのトトロの店を見つけました！すごくびっくりして、うれしかったです。ジブリが大好きで、いっぱい買ったんですが、本当に高かったです。でもネコバスを買って、今までずっとそばに置いてあります。

どうしてこの写真を選んだかという、暖かい思い出だからです。一日雨が降っていたのに、皆は一緒に楽しんでいました！



韓国人の友達

マルティン・カルソン

私が見せたい写真は7月7日に犬山でとった、電車から逃げる写真です。その時、写真に写っている韓国人が鉄橋の前で写真をとりたいと言ったから、タイマーをセットして橋の線路でポーズしようとしたけど、急に遮断機が降りてきて、私は不安になってしまって逃げました。後でその臆病さをすごく笑われました。

どうしてこの写真を選んだのでしょうか。それは、韓国人と一緒にした思い出だからです。犬山に行った時、2人の韓国人が前もって準備して素敵なお弁当を作ってくれました。韓国人たちのおかげで日本での経験が楽しいものになりました。料理もし

てくれて、自分の国についても教えてくれたから、韓国の経験をすることもできました。

サマースクールで、韓国人達と話す時、いつも日本語で話しました。初めは難しかったけどだんだん日本語でもっと簡単に自分の思いを伝えられるようになりました。



私の心に残る
この一枚

フレドリック・リンド

日本に来てから、すぐに「ここは私のいるべき場所だ」と考えました。心からこの国を愛しています。女性もきれいだし、食べ物も美味しいし、卒業したら絶対ここに引っ越したいと思っています。

日本で一番良い経験はやはり郡上のホームステイでした。ホストファミリーはすばらしくて、来年も会う予定です。そして私とポントスさんは本当に郡上のお盆踊りに夢中になってしまったんです。CDもTシャツも小立像も買いました。



今年の「LUUP」の試験を受けるつもりです(一年間の留学プログラム)。前は早稲田大学と慶応大学で勉強したかったけど、今は「岐阜大学もすごいな～」と思い始めました。来年はもしかしたら岐阜大を目指すかも知れません。

これからスウェーデンでの一人暮らしに戻るけど、私の心は確かに日本に取られました。スウェーデンで勉強しながら、日本と新しい日本の友達のことを考えます。

日本のサマースクールに来られて、本当に岐阜大学に感謝しています。そして「SWEDEN - JAPAN SASAKAWA FOUNDATION」にも心から感謝します。ありがとうございました。



ばかなカメラ

フレドリック・ノルドマルク



わたしのこころにこのいちまいは、カメラにぜんぶのしゃしんをけされたことです。このしゃしんは2007ねん7がつ17にちにとりました。わたしはさいきんカメラのいじわるなことをみつけました。わたしがいちばんみてほしいぶぶんはかわいそうなメモリーカードです。メモリーカードはいつもべんりだったけど、ばかなカメラにころされました。このけいけんをともだちにいったとき、ともだちはかわいそうとほんとうにざんねんだといいました。これはぜったいにほんでいちばんわるいことだとおもいます。じつはホームステイのかぞくのことについてかこうとおもったけど、しゃしんがなくなったから、このことはできませんでした。だから、このしゃしんのタイトルはばかなカメラです。



滝ばんざい

キム・ペルソン



私の心に残るこの一枚はホームステイの家族といっしょに大きい滝に行って見たときの写真です。これは郡上で7月14日に撮りました。私は始めてこんなに大きい滝を見たから、本当にびっくりしました。

その日の前に雨がたくさん降ったから、滝の水が増えました。そのせいで湿度はすごく高くなりました。私と私のホストファミリーのみなさんはずぶぬれになりました。

この経験は本当に面白くて、印象的でした。私の命が終わる前までこの経験を忘れられないと思います。



やっぱりまたあめだ

ニクラス・ペルソン

2007年7月8日

このシャシんは私がいちばんこまらされたものです。私はあめがすごくきれいだから、つゆはほんとうにたいへんなことです。

つゆのおかげで、いろいろなじこにいました。それで、あめがふるときに、ほんとうにゆっくりじてんしゃにのらなければいけませんがかえるとき、じかんがかりすぎますからたいへんになります。

この写真はたぶんいつも私の心の中にあります。シャシんはとしょかんのうしろでとったけど、このシャシんのビルはかんけいがありません。シャシんでくもだけがたいせつなじょうほうです。このくもはぜったい日本のあめらしいくもです。

あめがふっても日本はすごくてのしいです。でもこのつゆはぜったいわすれられません。だからこれは私の心の中にあるシャシんです。

(カメラの故障につき写真未提出)



私の心に残る
この一枚

アレクサンデル・ペテルソン

私の心に残る写真はこのホストファミリーの子供のさやかちゃんの写真です。7月14日、郡上八幡で撮りました。この写真を選んだ理由はホストファミリーと一緒に住んだことは私の日本での一番いい経験だからです。それにさやかちゃんと遊んだことは、ホームステイの一番楽しかったことです。

友達に写真を見せると、みな「あっ、かわいいねえ」と言います。私もそう思いますが、かわいいだけではありません。仲がよくなって、本物の妹のような感じです。それでこの写真は私にとって本当にいんしょうてきなのです。忘れられません。



新しいと古いミックス

アレ・ポールソン

私は、2007年6月15日に白川に行きました。白川はとても古いまちで、でんとうてきな家がたくさんあります。さんぼしている時にこの写真を取りました。

その古くて、でんとうてきな家の中にとっても新しい車がおいてありました。見た時はとてもびっくり



しました。昔と今の対比はものすごく、最初は自分の目をうたがってしまいました。「こんな古い家に住んでいるの

にこんな最新の車を運転しますか」と思いました。でも、考えた後に分かりました。本当にこれは日本では代表的なことです。日本の中にいつもとても新しい物とともに古い物がみつかります。日本人が一番最近と昔に作った物が好きですが、ちゅうとはんばな物があまり好きじゃありません。だから、私の考えではこの写真は日本の象徴です。



恐怖

サミュエル・ロセニウス

私の心に残るこの一枚は「百足の恐怖」です。

この写真は学外研で先週とりました。

日本に行く前に先ばいは私達に百足について教えてくださいました。そのおかげで百足のこわさをよく知りました。

毎日学外研でかまれないためにくつとかふとんをチェックしました。

結局、だれも百足にかまれませんでした。面白い経験になりました。特に先ばいのゲームは面白かったです。百足とごきぶりを殺すとポイントをとれます。ごきぶりは一点で百足は十点です。今二十点しか集めませんでしたので、私はたぶんまけます。

スウェーデンに帰ってからのぶん寝る前にベッドに百足がいるかどうか調べ続けます。恐怖はかんたんになくなりませんから。



郡上八幡

フィリップ・スエンソン



私の心に残るこの一枚は郡上八幡での週末です。この写真は郡上八幡の3番目の夜に、郡上踊りで撮りました。

日本では、様々な、印象的なことがありましたが、郡上八幡は私の一番印象に残る経験です。書道、茶道、座禅などをしたし、ホストファミリーと会ったし、ホストファミリーと一緒に様々な歴史的な場所と神社に行ったし、郡上八幡の週末はずばらしい経験になりました。

私がこの写真を友達に見せると友達は「かっこいい。」とか、「郡上踊りを踊りたい。」と言います。

ホストファミリーはとても親切な人です。同じことに興味がありましたので、ホームステイは楽しかったです。だから郡上八幡はいい経験でした。



ともだち

オーサ・ソーデルホルム

わたしのころにのこるこのいちまいは、かんこくじんのすごいしんせつさです。それでこのかんこくじんのともだちのしゃしんをえらびました。

このしゃしんはエクスカッションのときにバスのなかでとりました。しゃしんをとるとき、さっきか



んこくじん
にあったば
かりなの
に、もうな
かがよく
なりました
から、わた
しにとって、この

しゃしんがいんしょうてきなのです。

ともだちにしゃしんをみせたとき、みんなは「ああ、かわいい。かんこくじんのともだちはやさしそうなひとね。うらやましい。」といました。

わたしはにほんでたくさんすごいきけいけんをしたけど、このけいけんはほんとうにいちばんすばらしかったです。

ファミリーの娘さんは折り紙が好きでしたので、その時の経験は役に立ちました。私はどんな事を経験したほうがいいかあまりわかりません。だからこの写真を選びました。



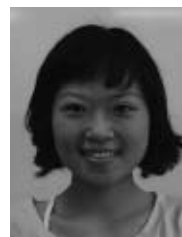
「でも、
もっと食べたい！」

キム, キョンヒ

私の心に残るこの一枚は食事の時に撮った写真です。これは2007年7月15日、郡上でホームステイをした時、家族と一緒に外へ出て家に帰る途中回転すし屋で食事をした時に撮りました。この写真の一番見てほしい



部分は「たくさん食べ終わったお皿」です。私はさすが本当に好きですが、日本に来てから今までずっと食べられませんでしたが、でもその時はおいしいすしをたくさん食べました。ホームステイの家族が私のために特においしいすしを勧めてくれて韓国では食べたことがなかったものもたくさん食べました。この写真を見るたびにそのことを思い出します。私がこの写真を友達に見せたとき、友達は「これ、あなたが全部食べたの?」とか「ウワーおいしそう! 私も食べたい!」などと言いました。この経験は私にとってとてもいい経験でした。もちろん3泊4日のホームステイも!



履きたくない下駄

キム, ソンミ

日本に来て色々なお土産をもらいました。その中でも一番気に入っている物は下駄です。この写真は



私が今と昔の
日本で見た夢

ニクラス・ウッテルベック



私は郡上で、皆がホストファミリーに会う前、先生に少し案内してもらって、色々なお店に行きました。この写真は、その時に撮った物です。私の心に残るこの写真には、日本に来てから今までの毎日の夢みたいな気持ちが出ています。

写真のピンぼけは私のあいまいな気持ちを表現しています。「現代か昔か何でもうつくしい。伝説みたい」な気持ちももらいました。

いい経験かどうかわかりませんが、経験は経験です。いつも新しい事を経験します。この写真を撮った場所で折り紙を習いました。それに郡上のホスト

郡上八幡のホームステイから帰った次の日、つまり2007年7月16日、学外研の私の部屋で撮った下駄です。

この下駄はホームステイの時になぎちゃん(新しい日本の妹)がバイトして買ってくれた物です。私はとても嬉しかったけど履くには惜しい物だから、郡上踊りの時にも履けないほどでした。なぎちゃんはいつも私に親切に日本語を説明してくれて、ありがたい気持ちを持ったけど、このきれいな下駄のおかげでその気持ちが増えました。感動させられました。

この写真を見た韓国の女の子の友達みんな“羨ましいね。私も下駄が欲しいよ。”とうらやましがりました。そして私が一番見てほしい部分の下駄の上の花模様を話した時にもとうらやましがりました。

今度のホームステイのおかげで、いい妹と気に入った物を得ました。こんないい経験は永遠に心の中で思い出になって残るでしょう。



らえませんでした。それで笑いものにされました。

最初はこの部屋に慣れなくて友達の部屋で寝ていたけれど、今は去りたくない私だけの部屋になってしまいました。

結局昨日、友達に私の部屋を片付けさせられました。

でも私はきれいな女性ですよ～



家族

バク, ジニ



なじみの私の部屋

バク, ポヨン

私の心に残るこの一枚はいつも散らかっている私の部屋です。ほんとうにおかしいことは片付けても片付けてもすっきりしないことです。

この写真はホームステイが終わってから学外研に帰った日に撮りました。ただ全体的に見てほしいです。その日友達に私の部屋を見られて、「おとこの台風の影響なの?」と聞かれました。それで私が「ホームステイの準備で忙しかったので、片付けられなかったんだよ」と言ったのにみんなに「ポちゃんの部屋はごみためなんだよ」と言われて信じても

私は、韓国で一人暮らしをしています。寂しい生活ですけど、この暮らし方になれているので、日本でたくさんの人々と一緒に暮らすことが一番の心配でした。それに外国の家でホームステイをすると聞いて緊張しました。

しかしホストファミリーの家族は皆が本当の家族みたいにやさしくしてくれました。いろいろないい所にもつれて行ってくれたし、夜には蛍を見に行きました。

日曜日には浴衣を着て家の前で写真を撮りました。私は韓国の両親と一緒に写真を撮ったことがなかったから、この写真を見るといい気持ちになりま

す。これが「家族」ということですね。こんな幸福な気持ちになれてよかったです。

この思い出を絶対に忘れません。韓国に帰っても、ずっと連絡を取るつもりです。ありがとうございます。幸せでした。



僕らの歌

イ, ユンホン



「私の心に残るこの一枚」は、八幡の小学生たちの団体写真である。この写真は私たちが2007年7月13日にホームステイのために郡上に行った時、撮ったものだ。この写真について簡単な説明をしたと思う。

岐阜大学のサマースクール留学生たちはサマースクールのプログラムの中で郡上八幡という所で3泊4日でホームステイをする計画がある。その3泊4日の日程の初日に八幡の小学生たちとの交流があった。この写真はその交流の時のものである。

この写真で集中して見てほしい部分は三つだ。子供たちの輝いている目、一生懸命振ってる手、そして体。写真をじっと見ていると小学生たちのまごころが伝わってくる。正直ここまで歓迎されるとは想像もしなかったの、子供たちのうたは感動そのものだった。たぶん、この気持ちは私だけではなく、留学生のみんなにも伝わったと思う。

「うわ！すごい！すごい！」

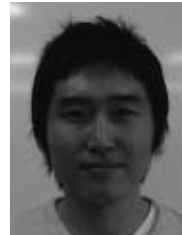
となりにいたポントス君の言葉を思い出す。彼にも小学生たちの歓迎会はすばらしいものだったらし

い。

耳をすませば今にも写真の中から力強く歌っている小学生たちの声が聞こえてくるようだ。

「WAになって踊ろう！WAになって踊ろう！」

その時の興奮、気持ち、何一つ忘れられない。このような経験は誰にでも与えられるものではないから本当に大事にしたい。うん、そう！



自転車生活

チェ, ドゥ ホ

前にテレビで日本は交通手段として自転車に乗るって聞いたことはあるけど、以前2回の東京旅行ではあまり見ることはありませんでした。この写真は日本に来たばかりのときはじめて岐阜大学に来て見た自転車のけしきです。多くの自転車がならべられている様子を見て本当にびっくりしました。

“日本人はみんな自転車で移動するんだ”と思いました。私は子供の時に自転車に乗ったことはあるけど、それ以外には年に1回も乗らなかったです。

毎日のあまりのあつさにもう顔が黒くなったけど、自転車の生活になれてきて、歩くのがいやになりました。

旅行ではできないめずらしい日本人の生活を経験できました。



まとめの会とアンケート集計結果報告

8 週間コース参加留学生
4 週間コース参加留学生

ルンド大学 (スウェーデン) 15 名
ソウル産業大学 (韓国) 6 名
計 21 名

昨年度まで3週間だったソウル産業大学学生の参加プログラムが、今年度からは先方からの要望により4週間に延長された。また、同校からの参加者定員も、5名から6名に増員された。ルンド大学からの参加者人数も昨年度を上回り、今年度のサマースクールも成功裏に終わったことを心より喜ばしく感じている。

プログラム最終日の7月25日(水)に、1時間強をかけて本年度のサマースクールに対する学生からのフィードバックを得る「まとめの会」を実施した。学生には、前もってアンケート(後掲)を配付し記入を依頼していたが、会当日までに回収できた枚数が少なかったため、アンケート結果集計前に会を行うこととなった。会では、事前配付のアンケートの質問内容とできるだけ重ならない事柄について質問をするよう心がけた。

昨年度の反省を踏まえ、今年度はまとめの会の実施方法を工夫してみた。昨年度は学生の自由発言を求める形で行っていたが、この形式だと発言をする学生が偏り、ある学生が何かを言うと、全員が同調しがちで、1人1人の本当の意見を聞き出せないという危惧を感じた。今年度はそれを避けるために、事前配付のアンケートとは別に、まとめの会当日に口頭でなされる質問に対して筆記で答えるという簡単なアンケートを実施してみた。この方法にすれば、口の重い学生の意見も汲み取れると考えたわけである。

以下、事前に記入を依頼したアンケートの分析結果をまず述べ、その後、会当日に行った口頭アンケートについて記述を続けたい。

事前記入依頼のアンケートは、A3版2枚で、参加学生21名中20名から回収した(1名まとめの会欠席のため)。日本語授業、日本事情講義、見学と旅行、宿舎とチューター等について尋ねた。ほぼ例

年通りの結果を得られたが、特記事項を以下に指摘する。

日本語授業で使用する教材の難易度について、日本語担当教員から簡単すぎるのではないかという懸念が示された。しかし、アンケートでは、レベルが「ちょうど良かった」という回答が20名中13名、「少し難しかった」4名、「少し簡単だった」3名ということで、適当と考えてよからうという結果となった。本サマースクールは、日本語学習が大きな柱であるが、それは教室内に教科書と首っ引きで勉強したり、教科書の予習復習に時間をかけたりすることを意味しない。折角日本の地に来ているのだから、教室外で生の日本語に触れ、日本の生活をエンジョイすることこそが本プログラムの醍醐味とも言えよう。学生、教員ともこのことは強く認識しており、教材レベルを上げることが必要かどうか、自ずと答えは得られる。また、昨年度のアンケートで不満が噴出した「90分授業は長すぎる」という問題については、授業の半ばで一度休憩を入れる方式にしたところ、見事に解消した。

日本事情講義には、今年度初めて狂言の実演を盛り込んだ。今年で3回目となる能の実演と合わせて、能・狂言の両方を提供できることになった。後掲アンケート結果を見ると、日本事情講義の中で「相撲」の人気の高いことが分かる。これは、担当講師の工夫も勿論のことながら、担当講師が日本語授業も教えているため、学生のレベルに合わせて日本語をコントロールしていることも要因であると考えられる。講義内容を高めるとともに日本語をどう分かりやすくするのか、今後も模索は続く。

言うまでもなく、本サマースクールで毎年参加学生から激賞される郡上プログラムと宿舎チューターは、今年度もその栄冠に輝いた。この2つは、どう頑張っても大学教職員にはカバーできない部分であ

る。郡上八幡国際友好協会及び郡上市役所八幡地域振興事務所の皆様、宿舎チューターの岐大生の皆さんへは、ただただお礼を申し上げるばかりである。蛇足であるが、今年は宿舎チューターへの応募者が例年にないほど多く、折角の応募者を何人もお断りする事態となってしまった。心苦しく思う反面、これだけ多くの岐大生が留学生との交流に興味を示してくれたことは大変嬉しかった。岐大生の国際理解を進める上で、サマースクールが果たせる役割は他にもあるかもしれないと、とりとめのない考えを巡らせている。

次に、まとめの会当日に行った口頭アンケートの結果と考察を述べたい。このアンケートでは、特に費用と通学方法の2点について重点的に尋ねた。それには、以下のような理由がある。

今年3月に武協留学生センター長と筆者(留学生センター准教授土谷)は、ルンド大学を訪問し、貴重な情報交換の機会を得た。その際に、学生は参加費を、学生ローンなどを利用して工面しているとの話を伺った。本プログラムは、学生が苦勞して工面した参加費に見合う内容が提供できているか否かを確かめたいと思い、1点目の費用についての質問を設けた。2点目の通学方法について尋ねた背景には、今年度例年以上に病人・怪我人が続出したことがある。普通の怪我や病気であれば、彼らが母国にしようとして日本にしようとして防ぎようがないが、宿舎(岐阜大学学外合宿所研修施設、以下学外研)から大学までの自転車通学に起因する怪我や症状が目立ったのである。学外研から大学までは約7キロの距離があり、直通的な路線バスもないことから、事実上学生の通学手段は天候に関わらず自転車に限られている。今までにも、軽重の差はあるものの、毎年必ず参加学生の誰かが自動車と接触した、しそようになったということが起きている。今年の怪我の頻発状況を重く捉え、宿舎や通学手段について根本的に真剣に考えるべきであると強く思い、学生の生の声を聞くこととした。

まとめの会には1名が欠席したため、参加全学生21名中20名からの回答を得た。まず、費用についてであるが、以下の質問を用意した(カッコ内は答えの選択肢である)。

- 1) 費用と内容を比べてどう思うか。
(参加費は：適当・高い・安い)
- 2) 費用を安くするために、見学・旅行などを減らしてもよいか。

(減らしてもいい・減らさないでほしい)

質問1)については、「適当」が10名、「安い」が10名であった(「高い」はなし)。費用は提供している内容に見合っている、もしくは費用以上に満足できる内容が提供できているという回答にささか安堵した。質問2)の回答は、「減らしてもいい」が1名、「減らさないでほしい」が19名という圧倒的な結果が出た。参加学生のほとんどは、今年度のプログラムに満足し、今後もエクスカージョンを減らさないことを希望しているのである。この結果に安心して胡坐をかかづもりは毛頭ないが、準備や手配で心を砕いた甲斐があったと嬉しく思っている。

通学方法については、以下の質問を投げかけた。

- 3) 学外研から大学までバスを出せば乗りたいか。

(乗りたい・乗らない)

- 4) 学外研で授業をすることはいいか。

(いい・悪い)

現在、学外研から大学までは事実上強制的に自転車通学となっている。しかし、自動車とぶつかったり、連日の自転車こぎで膝を痛めたりする学生が発生し、トラブルの原因となっている。費用捻出の問題はあるが、もしスクールバスを出すことができれば利用するかを質問3)で尋ねたところ、「乗りたい」が14名、「乗らない」が6名であった。これはバス利用の検討の余地がある数字であると思う。学生からは、スクールバスでなくても、路線バスの利用について説明があればよかったという要望も出され、来年度の参考となった。自転車通学を避けるためのもう1つの方策として、学生が大学に来るのではなく講師が学外研に赴くということも可能であろうと、質問4)を發したのだが、「いい」1名、「悪い」19名という圧倒的な回答となった。「悪い」とした学生には理由も挙げてもらったが、怠け者になる・日本の大学に通っている感じがしなくなる・学外研から出なくなる・つまらない・他の学生に会えない等々の意見が寄せられた。「ぜったいダメです!」と力強く書いてくれた学生もあり、学外研での授業実施は避けるべきだとの確証を得た。繰り返しとなるが、費用の問題さえクリアできれば、来年度はなんとか通学方法を改善したいと思う。

費用・通学方法に関連して、これらの点について来岐阜前にどの程度の情報を得ていたかも問うた。ルンド大学では、毎年同大学の先生方や、前年度サマースクールに参加した学生によるガイダンスが行

われており、十分情報を得ることが可能だったとの回答が多かった。しかし、ソウル産業大学ではそのような機会はなく、岐阜の地に来てから学外研が大学から離れていることや、自炊をしなければならぬことを知ると言うこともあったと言う。この点については、改善を期さねばなるまい。

本アンケートでは、最後に「日本に来て嬉しかったこと・良かったこと Best 3」を自由記述で書いてもらった。そこには、多くの学生が郡上とチューターを挙げており、学外研での共同生活という回答も複数あった。「スウェーデン人／韓国人と友だちになった／旅行した」という回答からは、参加者同士の交流から、日本に限らないより広い世界へ目を開く機会が得られたことがうかがわれたが、これも本サマースクールの意義の1つであろう。

最後になるが、毎年のサマースクールを陰になり日向になり支えてくださった皆様へのお礼を申し上げたい。学外研の管理人である西川節子氏には、今年度も細部に至る心遣いをいただいた。留学生課の山田安男課長、粥川美重子課長補佐には、事務手続きに関しては勿論、見学引率の労も取っていただいた。そして、留学生課でサマースクール業務の中心となって尽力してくださった飯沼千代香係長には心の底からお礼を申し上げたい。飯沼係長は、本年度サマースクールが終了した7月末日をもって留学生課を離れたが、留学生課そしてサマースクール業務で発揮した有能な仕事ぶりを、必ずや新たな職場で生かされることと思う。今後のより一層の活躍を祈念している。

今年度のサマースクールの反省を胸に、来年度更なる発展を目指す決意を持って、この文章を書き終えることとしたい。

【アンケート結果】

(★マークは学生の自由記述コメント。学生の書いたとおりに記載した。)

全回答者数：20

I 日本語の授業 (Japanese language classes) について

1. 日本語のプログラム (午前は授業・午後は自習 self-study, 月曜～木曜) について

- | | |
|----------------------------------|----|
| <input type="checkbox"/> とてもよかった | 13 |
| <input type="checkbox"/> よかった | 7 |
| <input type="checkbox"/> 悪かった | 0 |
| <input type="checkbox"/> とても悪かった | 0 |

2. クラスで使った教科書などのレベルについて

- | | |
|-----------------------------------|----|
| <input type="checkbox"/> 難しすぎた | 0 |
| <input type="checkbox"/> 少し難しかった | 4 |
| <input type="checkbox"/> ちょうどよかった | 13 |
| <input type="checkbox"/> 少し簡単だった | 3 |
| <input type="checkbox"/> 簡単すぎた | 0 |

3. 日本語の教え方について

- | | |
|----------------------------------|----|
| <input type="checkbox"/> とてもよかった | 9 |
| <input type="checkbox"/> よかった | 10 |
| <input type="checkbox"/> 悪かった | 1 |
| <input type="checkbox"/> とても悪かった | 0 |

4. 日本語の授業時間数について

- | | |
|-----------------------------------|----|
| <input type="checkbox"/> ちょうどよかった | 18 |
| <input type="checkbox"/> 多すぎた | 0 |
| <input type="checkbox"/> 少なすぎた | 2 |

★ ちょうどよかったですが、朝早かったですよ！

II 日本事情の講義 (Japan-related lectures) について

1. 日本語の授業のほかに、日本事情の講義があることについて

- | | |
|----------------------------------|----|
| <input type="checkbox"/> とてもよかった | 4 |
| <input type="checkbox"/> よかった | 13 |
| <input type="checkbox"/> 悪かった | 3 |
| <input type="checkbox"/> とても悪かった | 0 |

2. 日本事情の講義を通して日本についてたくさん勉強することができましたか。

- | | |
|------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> できた | 5 |
|------------------------------|---|

- 少しできた 15
- あまりできなかった 0
- できなかった 0

3. 日本事情の講義の中で、どれがよかったですか。下から2つ選んでください。(選んだ延べ人数を表示)

- 日本人の誠実さ・やさしさ・美しさ 5
- 相撲 13
- 狂言 5
- 陶芸 4
- 岐阜の文化 3
- 能 4

(ルンド大学学生のみ回答)

- 日本の経済 2
- (ルンド大学学生のみ回答)

どうしてその講義がよかったですか。理由を書いてください。

- ★ 面白くて楽しかった。選ぶのは難しいですけど(狂言)
- ★ その2つはいちばんおもしろいきょういくなじじょうのこうぎですから(相撲・陶芸)
- ★ きょうみがあって面白かったです(相撲・能)
- ★ 日本の古い文化にきょうみがあります(相撲・能)
- ★ 相撲と狂言が一番日本らしいでした(相撲・狂言)
- ★ ただ、本で学ぶ勉強じゃなくて、実際に体で体験する面で見るとすごくよかったと思う(相撲・狂言)
- ★ どこかに行って、自分でして見る機会があるからおもしろかったです(相撲・陶芸)
- ★ ほかの講義より興味がありました(相撲・岐阜の文化)

4. 日本事情の講義で、ほかに勉強したいトピックがありますか。あれば、書いてください。

- ★ まんがかアニメかな～、今、それは日本の大切な輸出商品ですから。
- ★ 日本の社会(例：家族、宗教)

5. 日本事情の講義の回数について

- ちょうどよかった 15
- 多すぎた 3

- 少なすぎた 1
- (未回答：1)

Ⅲ 国際理解教育 (International understanding) の授業について (ルンド大生だけ)

1. 国際理解教育 (6月13日・テーマ：日本らしさって何?) について

- とてもよかった 6
 - よかった 7
 - 悪かった 1
 - とても悪かった 0
- (未回答：1)

2. 国際理解教育の授業を、何回くらいしたいですか。

- 0回(しなくてもいい) 0
 - 1回 2
 - 2回 7
 - 3回以上 5
- (未回答：1)

3. 国際理解教育の授業について感想や意見があれば書いてください。また、日本人とどんなトピックについて話したいか書いてください。

- ★ 日本のアニメについて

Ⅳ 見学と旅行 (Field trip) について

1. 見学(陶芸 pottery・相撲)は、それぞれよかったですか。

- 【陶芸】
- とてもよかった 12
 - よかった 6
 - 悪かった 0
 - とても悪かった 0
- (不参加：1, 未回答：1)

- 【相撲】
- とてもよかった 15
 - よかった 4
 - 悪かった 0
 - とても悪かった 0
- (未回答：1)

感想や意見を書いてください。また、ほかに行きたい所があれば書いてください。

- ★ とうげいはすごいでした。自分の手で何か作るのとはとても楽しいことです。相撲もいい経験でしたが、ルールとかちょっと分かりませんでした。
- ★ とてもおもしろかったです。
- ★ とても楽しかった。何より日本の伝とう文化をじっくり感じる事ができた。

2. 旅行(位山<くらいやま>ルンドの学生だけ)、京都)は、それぞれよかったですか。

【位山】

- とてもよかった 7
- よかった 5
- 悪かった 1
- とても悪かった 0

(未回答: 1)

【京都】

- とてもよかった 11
- よかった 8
- 悪かった 0
- とても悪かった 0

(未回答: 1)

感想や意見を書いてください。また、ほかに行きたい所があれば書いてください。

- ★ 両方とも楽しいでしたが、京都に泊まっている間はもっと長くなるといいです。
- ★ 位山でのんびりリラックスできたし、楽しかったです。京都はちょっと早かったです。一日中お寺を見に行くのは大変でした。
- ★ たぶん大阪に行きたかった。
- ★ おもしろかったのですが、みじかかったと思います(京都)
- ★ 京都の旅行はちょっと、ほんのすこしだったけどあまり面白くなかった。観光に近い感じというか。
- ★ あちこち京都の名勝地を見るのはよかったです、時間が少なすぎでした。

V 郡上でのプログラムについて

プログラム(書道<しよどう> calligraphy, 郡上おどり Gujo dance, 紙細工<かみさいく> paper craft, 座禅<ざぜん> Zen meditation, 茶道<ちやうだう> tea ceremony, ホームステイ)はどうでしたか。

- とてもよかった 15
- よかった 3

- 悪かった 1
 - とても悪かった 0
- (未回答: 1)

感想や意見を書いてください。

- ★ 座禅はまあまあでした。あまり興味がない人とか座禅のすわり方ができない人に、これはちょっと無駄な時間でした。
- ★ 郡上最高!
- ★ 面白かったです。特に郡上おどりは面白くて楽しかったです。
- ★ 小学校との出会いがたのしかったです。
- ★ 一言で最高! その中で郡上踊りは忘れられない。
- ★ おもしろかったけど、時間が少なすぎだから惜しかった。

VI 宿舎(dormitory)とチューターについて

1. 宿舎の設備 equipments について

- とてもよかった 7
- よかった 10
- 悪かった 2
- とても悪かった 0

(未回答: 1)

宿舎にほしい設備があれば書いてください。

- ★ トイレにタオルをお願いします。
- ★ インターネットコネクション
- ★ ストープがありません。
- ★ たきゅう(卓球)が大好きですから、幸せになりました。
- ★ パソコン&インターネット&国際電話
- ★ オープンが必要でした。

2. チューターが宿舎にいることについて

- とてもよかった 12
- よかった 7
- 悪かった 0
- とても悪かった 0

(未回答: 1)

その理由を書いてください。

- ★ 日本語で話せて、質問が聞けて、遊びました。とても楽しかった。
- ★ 日本人はわたしたちのちかくにいつもいますから。

- ★ とても親切でおもしろかったです！最高！
- ★ チューターがみんなすばらしくて親切でとても面白い人です。
- ★ やさしい
- ★ 友だちになって、たくさん日本語を話しました。
- ★ いい友達でいつも日本語を話す。
- ★ やさしかったと思います。
- ★ 仲良くなれるから。
- ★ 日本語の勉強には全然助けにならなかったけど、日本の生活にはいろいろな助けになりました。
- ★ お話の機会が少なかったです。チューターがみんな親切ですが私たちはの話しよりチューターたちだけの遊びという感じが感じさせられました。

Ⅶ 大学の施設 (facilities) について
サマースクールの間に使った大学の施設を選んでください。(選んだ延べ人数を表示)

- | | |
|-----------------------------------|---------------|
| <input type="checkbox"/> 図書館 | 13 |
| <input type="checkbox"/> メディアセンター | 15 |
| <input type="checkbox"/> 食堂 | 11 |
| <input type="checkbox"/> coop の店 | 11 |
| <input type="checkbox"/> その他 | 2 (体育館1・講義室1) |

Ⅷ サマースクール全体について

1. このサマースクールの全体的な評価 evaluation について

- | | |
|----------------------------------|----|
| <input type="checkbox"/> とてもよかった | 11 |
| <input type="checkbox"/> よかった | 8 |
| <input type="checkbox"/> 悪かった | 0 |
| <input type="checkbox"/> とても悪かった | 0 |

(未回答：1)

2. これからのサマースクールのために、提案 suggestion や意見があれば書いてください。

- ★ 自転車にチェックしてください。時々、じょうたいはちょっと変です。ブレーキとかそんなことです。
- ★ 学外研のインターネットコネクションがあればいいと思います。
- ★ 郡上のけいけんはとてもすばらしいだった！
- ★ 来年また来たくなるくらい楽しかった。
- ★ 韓国の学生たちももっと多い時間を参加するようにしてください。
- ★ 留学生センターのみんなの先生たちにありがたいの気持ちを持っています。一ヶ月のうちにほんとうにありがとうございました。

第二部 夏期短期留学(派遣)

グリフィス大学

●オーストラリア グリフィス大学参加者名簿 (合計 15 名)

日程：2007年8月21日から9月30日 (5週間)

	氏名	学部	学年
1	牧田 真奈	地域科学部	1
2	浅野 由莉	教育学部	1
3	市原 早耶香	教育学部	1
4	勝 明美	教育学部	1
5	石川 聡真	工学部	2
6	飯田 あゆみ	応用生物科学部	2
7	鈴木 一輝	地域科学部	2
8	高橋 千奈	応用生物科学部	3
9	中川 真基子	地域科学部	3
10	山田 晴文	工学部	3
11	松井 真弓	応用生物科学部	3
12	又吉 政張	工学部	3
13	松井 亜美	工学部	3
14	仲村 友里	教育学部	1
15	大場 有加里	応用生物科学部	3



事前研修

短期留学へ行くと決まってから少し経った5月の終わりから8月の始めまでの約2ヶ月とちょっとの間、事前研修という授業があった。毎週木曜日と金曜日に2時間ずつあり、その授業中は英語しか話してはダメという感じだった。

英語を教えてくれた先生はジェニー、スティーブン、ジャニーの3人で木曜日はジェニーとスティーブン、金曜日はジェニーとジャニーで1つの授業にだいたい2人だった。ジェニーとジャニーは本当に「外国の女性」という感じでよくしゃべりとても明るく、身振り手振りも多く、何に対してもすごくオープンでとても楽しかった。スティーブンは少し控えめだったが、それでも面白くとても優しい、いい先生だった。

最初は外国人とあまり話したことがなかったので、緊張してあまり話せなかった。だがどの先生も、もし分からなかったらゆっくり話してくれたり、分かりやすい言葉に言い直してくれたり、例を挙げて説明してくれたのでとてもやりやすかった。だから何回も授業を受けていると、失敗してもいいという気持ちから少しは積極的に話せるようになったと思う。みんなおしゃべりなのでとても楽しいし、恋愛の話、何気ない話をしたりしてくれたりといろんな話で盛り上がった。

事前研修で3人の先生と接して思ったことは、やっぱり日本人とは性格や振る舞いなどが全然違うということだ。3人の先生とも「典型的外国人」って言う感じがしたし、このおかげでオーストラリアに行ったときにどうやって現地の人と接すればいいか、どうすれば仲良く話せるかみたいなことを学ぶことができたと思う。オーストラリアに行く直前は、事前研修でちゃんと会話できたんだから大丈夫!と自信が持てたし、この事前研修があってよかったと思う。

(鈴木 一輝)

事前研修の授業では、英語を使って自己紹介やプレゼンテーション、ゲームをしたり、最近の自分のブームを話したりと、とてもリラックスしてゲームでは連想ゲームや言葉当てクイズなど、英語の言葉をたくさん使えるものが多かったです。

また、自分の住んでいる街についてのプレゼンテーションは、オーストラリアの大学の授業でもやらなければならなかったのですが、事前研修で一度経験してあったのでとても楽でした。

授業中は日本語を話してはいけなかったのですが最初のうちはとても大変でしたが、先生たちはある程度日本語を解かっていたので私の言いたいことを察して助け舟を出してくれたりもするのですごく勉強になりました。

オーストラリアに行く前にたくさんの留学生の人と話す機会があった事で多少の不安は軽減されましたし、たくさん友達もでき、とても楽しかったです。

(浅野 由莉)



大学生活

私のクラスは私を含め日本人3人、韓国人4人、中国人2人、台湾人1人、ヨルダン人2人、サウジアラビア人2人、ロシア人1人の合計15人のクラスでした。先生は2人いて、曜日によって分かれています。私たちのクラスは他のクラスと少し異なり、大きな四角いテーブルが4つあり、そこに4人ずつ座り授業を受けるという形でした。その座席は最初に第一言語が重ならないようにグループ分けをし、その後はずっと同じ席で授業を受け、途中で一度席替えを行いました。そのため同じグループになった人とはよく話しましたが、違うグループの人とは話す機会が少なかったです。

みんな国ごとに英語の発音に特徴があり、最初のころは聞き取りづらく何度も聞き返したりしましたが、どんだん来てきて少しずつコミュニケーションがとれていきました。特にアジアの人たちとは、漫画や芸能人、歌手などお互い共通して知っているものが多くよく話しました。

授業の内容は、文章を読んだり、リスニングをしたり、文法を学んだりしました。スピーキングという授業ももちろんありましたが、その他の授業でもグループで話あって答えを考えることが多かったので、授業の中で英語を話す機会がいっぱいありました。また、週に一回、好きなDVDを自分で選んで見たり、雑誌を読んだりできる時間があり、その授業が一番好きでした。

5週間はあっという間に過ぎてしまいました。最後の週は大きなテストがあり、それによりクラス替えが行われるため、みんな一生懸命勉強していましたが、私たちにはあまり関係なかったため気楽に受

けることができました。テスト以後はほとんど授業は行わず、話したり、ゲームを行ったり、ビデオを見たりしました。最後はみんながみんなに紙に一言ずつメッセージを書きました。

(高橋 千奈)

着いた次の日受けたテストの結果により授業のクラスが決定されました。岐阜大学から来た人たちは5段階あるクラスのうち、レベル4に2人入りしましたがその他の人たちはレベル3か2でした。レベル5はネイサンキャンパスで、他のレベルはマウントグラバットキャンパスで授業が行われます。各レベルによって授業内容はたいへん変わり、その中のクラスによっても多少違うようでした。先生によって授業内容や雰囲気も変わります。テスト形式や内容、採点方法も結構違ったようで、あまりあてにならないと思いました。

クラスはだいたい15人ほどで、最大人数は19人だそうです。私のクラスは18人いました。クラスは主にアジア人で構成されており、私のクラスには5人の日本人と4人の韓国人、5人の中国人、1人の台湾人、1人のスペイン人、2人のサウジアラビア人でした。台湾人は台湾で日本のテレビ番組が放送されているらしく、日本語をすごく上手に話していました。韓国人や中国人も日本のテレビを見たことがあり、日本語を学習したことがある人がたくさんいて日本に興味ある人がほとんどでした。日本人はクラスで人気者になれます。

授業は朝9時から始まり、10時45分から15分間のブレイクタイムがあって13時から1時間のランチタイムがあります。ブレイクタイムには教室の外に出てお菓子を食ったり他のクラスの友達と話したりしていました。ランチタイムでは日本人留学生のほとんどはカフェテリアでホストファミリーの作ってくれたランチを食べていました。カフェテリアには電子レンジがあるのでそこで温めていました。カフェテリアにはハンバーガーやフライドポテトのようなファーストフードが売っており、そこで買っている人もいました。月曜から木曜は15時半に授業が終了し、金曜日は13時15分に終了しま



す。サウジアラビア人は13時からお祈りがネイサンキャンパスにて行われるそうで、12時45分発のシャトルバスに乗るためにいつも早退していました。

5週目は月曜日に writing と reading の、火曜日に listening と speaking のテストが行われました。テストの前にはテストの準備みたいな授業が、テストの後には少し遊びみたいな授業がありました。水曜日は普通の授業が行われ、木曜日にテストの結果がみんなの前で順番に発表されました。プライバシーはありませんでした。先生からのアドバイスなどをもらった後、授業がありました。他のクラスはテストが終了して少ししたらすぐ結果を教えてもらったという人もいました。卒業証書も私のクラスは金曜日にもらいましたがもっと前にもらったクラスや日本に送られてくるクラスと様々でした。金曜日は、授業は10時45分までで11時45分から welcome summer party があり、ライブやファッションショーがありました。

私たちの他はみんなグリフィス大学やオーストラリアで大学に通う予定の人がコースにいました。私は遊び感覚で来ましたが、真剣で夢がある人が多くかなり影響されました。

(大場 有加里)

私たちの行った Griffith University は4箇所にキャンパスをもつ結構大きな大学で、ブリスベン City の SouthBank という場所

に1つ、郊外(※ゾーン3:City からどれだけ離れているかで公共交通機関の料金が設定されている)の Mt.Gravatt と Nathan に1つずつ、あとは Gold Coast に1つあった。実際に語学研修のコースが行われているのは Mt.Gravatt と Nathan で、Mt.Gravatt が GE1 ~ 4, Nathan が GE5 と Pre-EAP (これは私たちには関係の無いコースで、大学進学を考えている人用の専門英語用コースらしい)に分けられる。これは私たちの行ったときの分け方だが、次のタームからは GE4 の人数が増えるため GE4 も Nathan に行くことになったらしい。(人数の多さによって変わるみたい！)

GE とは General English コースのことで、初日にやるテストの結果によって1~5に分けられる。岐阜大学からの参加となると、このGEを受けることになる。ブリスベンに到着した次の日にクラス分けのテストがあり、コースについての全体の説明の後 Speaking, Writing, Grammar のテストがあった。Speaking は自分の専門について聞かれたり、岐阜大学について聞かれたりした。Writing は手紙形式のものや環境問題についてなど3題が出題された。Grammar は簡単な問題だったが、クラス分けで重視されているのはこの Grammar と Writing のミスの多さみたいだった。その後キャンパス紹介と簡単な市内観光に連れて行ってもらった。

授業は月曜~金曜で私のクラスの時間割は以下の表のような感じだった。

Teacher	Lyndall	Lyndall	David	Lyndall	Lyndall
Day/Time	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
9:00-10:00	SAC	Integrated skills	Integrated skills	Integrated skills	Computer
10:00-10:45	Integrated skills	Integrated skills	Listening& speaking	Listening& speaking	Integrated skills
11:00-12:00	Reading& writhing	Integrated skills	Listening& speaking	Listening& speaking	Reading& writing
12:00-13:00	Reading& writhing	Integrated skills	Integrated skills	Language Lab	Reading& writing
13:00-14:00	LUNCH	LUNCH	LUNCH	LUNCH	
14:00-15:30	Integrated skills	Integrated skills	Integrated skills	Integrated skills	

私のクラスでは先生が大変真面目な方だったので、文法の説明ばかりだった。(クラスによっては映画観たり、ゲームしたりしてくれるらしい！)

その他新聞記事について話し合ったり、世界時事について話したり、犯罪のテーマで Story を作りなさいといったグループワークがあったりなど、与えら

れるテーマは結構大変だったけどとにかく自分の知っている簡単な単語で話さないといわれるので、そこまで難しいわけでもなかった。

世界情勢や自分の国の時事などは簡単にでも把握していると先生の言っていることが判りやすくよかったです。私たちは10週間が1つのタームであるうちの後半の5週間に途中参加する形式だったので、文法の説明にしても以前やったけど…というのが前提みたいな感じだった。クラスは韓国人4人、中国人4人、香港1人、ベトナム1人、サウジアラビア1人、パキスタン2人、日本人3人(岐阜大学からは私だけ)だった。そのため、各国の文化の比較とかをSpeakingとして話し合う形式が多かった。ListeningはTVのNewsを聞き取って問題を解き、それについての感想を書くといったWritingも兼ねたものが多かった。

SACという時間はコンピューターがあったり、DVDがあったり新聞、テープなど自分の好きなもので英語を自主学習する時間で、Language Labはパソコンを使ってBBCのサイトなどを観たり、動画付きのNewsを聞いたりしてListeningの練習をした。Computerの時間には、自国の住んでいる所の説明としてPowerPointを使ってプレゼンテーションをしたりした。

また、クラスメイトは面白い人たちが集まっていたので、朝の15分間のBreakTimeなどがとても楽しかった。お菓子を持ち寄ってその時間にお菓子を囲みながらみんなで食べたりした(韓国人たちはみんなで分け合って食べるのが普通みたいで色々お菓子をくれるの!)。授業時間が長いのでみんな結構お腹すいてしまうので、このBreakは大事な時間だった。放課後は、金曜の早く終わる日の午後はクラスメイトでBBQをしに行ったり、韓国人た



ちとGardencityにショッピングに行ったり、パブに飲みに行ったりもできた。

ランチの時間は食堂があるので、そこに行って岐阜大のメンバーで食べた。お弁当をホームステイファミリーが用意してくれるので、それを食べた。電子レンジや給湯器などもあり、ハンバーガーやポテトなど買って食べることも出来た。キャンパスにはその他ちょっとオシャレなレストランみたいな所もあり、そのケーキが美味しかった。

最後の1週間は月・火とテストが午前中にあり、Writing, Listening, Speaking, Readingのテストをした。午後は他のクラスはゲームしたりしたみたいだけど、私のクラスは普通に授業をした。(泣)水曜日は先生が違ったので映画を観たりしたが、木曜はまた授業をやった。(私のクラスのリンダ先生が厳しすぎただけらしい…)金曜は全体のPartyがあったらしいが、私はクラスメイトとGoldCoastに行ったのでどんな感じなのか知らないけれど、このへんはもう出席はあんまり関係ないみたいだった。

(松井 真弓)

ホームステイ

●ホストファミリー

私のホームステイ先はおばあさんの一人暮らしでした。私は子供や家族がたくさんいる家庭を希望していたので、事前研修のときにそのことを知り、少しがっかりしましたが、「これからどうやっておばあちゃんの心をつかもうか・・・。」と考えたら逆にわくわくしてきたし、過去にサマース

クールに参加した先輩が「私のホームステイ先もおばあちゃんの一人暮らしだったけど、ゆったりしてて、夜は静かだし、自分のやりたいことできるし悪くないよ。」と言ってくださったので、出発間近のときには不安は消えていました。

実際にホストマザーのマーガレットと対面して、彼女はとても優しい人だったし、気さくな人なの

で、「この家庭でよかった。」と思いました。

それに、マーガレットの友人や妹といった訪問者とコミュニケーションをとることができたし、マーガレットの誕生日パーティーのときにはとてもたくさんの方が来て、日本人珍しさにみんなが声をかけてくれ、いろんな人たちと関わる事ができたので、「ホストファミリーが1人=関わることのできる人が1人」という訳ではないと思いました。

●言葉

はじめのうちは言葉が通じなくて自分にイライラしたこともありましたが、「わたしは日本人なんだから英語が解らなくて当たり前。落ち込まなくてもいいや。」と開き直ったら楽になりました。しかし、何か自分でも努力をしなければいけないと思い、英語で絵日記をつけたり、その日1日あったことを帰りのバスの中で整理して、マーガレットに提供する話題を考えたりしました。それに彼女はいつも私が解るようにゆっくりと話してくれたし、解らない単語があるときに質問すると、その単語の意味を丁寧に説明してくれたので、だんだんと話が円滑になりました。最後のほうには、マーガレットの愚痴を聞いたりすることもできました。日本にいるときには人の愚痴を聞くのは好きな方ではなかったのですが、そのときは「おお！私、今、英語で愚痴聞いている！」と感動してしまい、とてもうれしかったです。

●生活

・節水

クィーンズランド州は大変な水不足ということを知っていましたが、私のホームステイ先では他の家庭に比べて特に節水に気を遣っていたと思います。まず、シャワーは4分間しか浴びられません。髪をゆすいだお湯等は大きなバケツに溜めて、後日植木



にやります。食器は洗剤用とすすぎ用、2種類のお湯を溜めて、つけ洗いをします。お湯は大体最後まで換えません。歯を磨くときにはコップに水を溜めてその水だけで歯磨きを終えねばなりません。手を洗うときも水は流しっぱなしにするのではなく、水を溜めて洗います。洗濯は週に1回しかできません。

はじめのうちは日本との大きな違いに驚き、窮屈で不潔な気がしてとても嫌でしたが、仕方がないことなので節水に協力しました。同時に、水はとても大切なものだという事、日本はとても恵まれているのだということを確認することができたので、今となってはよい経験をしたと思っています。

・食事

オーストラリアというと、大きな肉の塊がでーんと皿にのっけて、付け合せも大盛。というイメージが強かったのですが、私の家庭に関しては、全くそんなことがなかったです。肉は確かに毎日出ましたが、ホストマザーが高齢ということもあってか、それほど肉々しい感じの料理はでませんでしたし、量も毎回「これくらいでいいかしら？」と聞いてくれたので助かりました。また、彼女は医者に「いろんな種類の野菜を食べなさい。」と言われていたらしく、毎日いろいろな野菜が付け合せとして出ました。わたしは野菜が好きなのでそれがとてもうれしかったです。ご飯は細長い、インディカ米が出ましたが、「私はミディアムライスが好き」と言ったら「それを聞けてうれしいわ。じゃあ明日買って来るわね。」と言ってきて、ジャポニカ米をエンジョイすることができて幸せでした。出されたものが自分の口に合わないで我慢するよりも、好きなものや嫌いなものをはっきり伝えたほうが相手にとっても自分にとってもよいことだと思います。

ここまで聞くと、私の家庭ではあまりオーストラリア的な食事が出なかったかのように見えますが、毎日夕食後にアイスクリームが出されることに関してはとてもオーストラリア的だとも思います。と、いうのも、オーストラリアはアイスクリームの消費量が世界一らしく、オージーは季節に関係なくアイスクリームをととてもよく食べるらしいのです。学校帰りなどにアイスを手で食べてしまっていて、「もう今日はすでに食べたし、晩御飯でおなかがいっぱいだから今晚はやめておくよ。」と伝えても、「ほんとに！？ほんとにいいの？ほん

とは・・・？食べたいでしょ？今おなかいっぱいなら1時間後くらいにあなたの部屋に持っていくわ。」といわれ、半ば強引にアイスを毎晩食べさせられました。おかげで日本にいるときよりもアイスが大好きになりました。

時々、自分で料理を作ったりもしました。ちらし寿司やお吸い物、日本のカレー粉でつくるカレー、抹茶クッキー、にんじんケーキをオーストラリアにいる間中に作りました。マーガレットは他の国にとっても興味を持っているし、料理が大好きな人なので、とても喜ばれたし、レシピを聞かれたりして、それもよいコミュニケーションのきっかけになりました。

●まとめ

自分から貪欲にアクションを起こせば、どんどんコミュニケーションの輪は広がっていくと思います。また、自分の思っていることは相手に伝えたほうがよいのだと思いました。そのほうが自分も相手もハッピーになって、一石二鳥です。言葉が通じないのは、なんとでもなるし、後から身につけていくことだと思います。まず、自分が何をしたいか、どうしたいか、何ができるかを考え、行動に移すことが大切だと思いました。

(中川 真基子)

今サママスクについて思い返してみると、私の中で一番大きな比重を占めていたのはホストファミリーと過ごした日常の Aussie 生活だったと思います。モートン島やゴールドコーストに遊びに行ったことや、クラスメイトと BBQ パーティーをしたのももちろん楽しかったのですが、ホストファミリー抜きで私の5週間は語れません。彼らは全てにおいて親切で、broken English しか話せないような私にもフレンドリーに接してくれました。

私のことを特によく構ってくれたのは Elwyn です。私は彼のことを Grandpa もしくは Papa と呼んでいました。Grandma の名前は Dell といい、お料理と編み物が得意な、気のいいおばあちゃんという感じでした。二人には娘と息子がいますが、それぞれに家族がいるので一緒には住んでいませんでした。ときどき一家で遊びに来たので、子供たちとポケモンの話をしたり、折り紙を作ったりして遊びました。ホスト先には私以外にもう一人留学生がいました。韓国人のシンディというお姉さんで

す。シンディは訛りのないきれいな英語を話すので、Grandpa と Grandma が話す Aussie 訛りやスラングがわからなかったときに、通訳をしてくれました。あとは…憎たらしい猫 (Cammie, ♂) がいました。庭には彼専用のソファがあって、驚きました。

Grandpa の口癖は、「夕食後の団欒の時間は大切だ」でした。平日はたいてい6時ごろから家族そろって夕食を食べ始めるのですが、食べ終わってから8時半か9時ごろまで、みんなそろってそのままリビングで過ごしました。その日にあったことや週末の予定の話、将来についての話やテレビの内容についてなど、さまざまなことを話しました。私にとって、生の英語と存分に触れ合える機会だし、Grandpa にとっては、孫娘(私)が何を考えどのような気持ちで今の生活を送っているか、英語のどのフレーズがわかってどの表現がわからないのかなどを知ることができる機会です。お互いにとってとても大切な時間であると私たちは認識していました。この時間があったからこそ互いにわかりあうことができ、有意義なホームステイ生活をおくれたと思っています。リビングのソファで居眠りをしていたら靴を隠され、さらにコップの水をかけられたり、さっきまで目の前にあったはずのチョコケーキがいつのまにか机の向こう端に移動していたり、庭に出ていたら家に入るドアの鍵を閉められたり、Cammie の毛玉を頭の上に乗せられたり、庭で捕まえてきた大きなバッタを急に肩に乗せられたりとかは、気の知れた仲間じゃないとできませんよね♪ …もちろん、上記のいたずらは全て Grandpa にやり返しました (^w^) v

Grandma は、誰かと違っていたずらを仕掛けてくるようなことはありませんでしたが、落ち着いた目



線でいつも私のことを見守ってくれました。近くのバス停まで歩いて10分程度の距離なのに、雨が降ると「送っていこうか」と声をかけてくれるような、とても気が利く人でした。料理がとても上手で、Shepherds Pie や Bacon and Egg Pie などのオーストラリアらしい家庭料理を得意としていました。週に一度、教会のミーティングがある日はケーキを焼いて、切り分けるときにいつも1ピースくれました。また、私が全ての料理の写真を撮っている様子を見て、誇らしげにしていた姿が印象的でした。本当においしかったので、毎日ご飯が楽しみで日本食が恋しくなることがありませんでした。いろいろな家庭料理を教えてほしいとお願いすると、準備の時間の都合上すべてを教えるのは無理だということでレシピを書いてくれました。さらに、オーストラリアで一番有名だという料理雑誌の10月号を私のために買ってきて、プレゼントしてくれました。

暖かい家族に囲まれて、素晴らしい5週間を送ることができました。言葉では言い表せないほど、たくさんものを得ることができたと思います。私の Aussie Grandparents は、Grandpa が退職したら日本に来ると約束してくれました。私は、新婚旅行でオーストラリアに行くことと約束しました。近いうちにまた会えるよ、と言葉を交わして、最後にみんなで写真を撮りました。今も e-mail の交換が続いています。

(飯田 あゆみ)

オーストラリア人の国民性は大らかで面倒見が良い。自分自身その性格のお陰で々と生活について助けて貰った。本当に過ごしやすく日常生活を送れたと思う。

例えば本当に初め、ホストマザーと大学で対面し家へと車で送って頂いた途中、当然初対面なので自己紹介をするのだけれど、オーストラリア英語は訛りが強いのかほとんど聞き取れないし、聞き取ってもらえなかった。正直この状態でずっと過ごすのかと思うと不安だったけど、その日の夕食後の時間、高校の英語の教科書を持ってきて英語を教えてもらった。ジェスチャーや筆談も多かったけど、このお陰で初日から英語で話そうとする気持ちになれた。因みに高校の教科書はホストマザーの従姉妹が教科書の編修をしていたのでそれを貰って留学生にショートレッスンをしていたようだ。

ホストファミリーは初日に親切に英語のレッスン



をして頂いたホストマザーの他にホストファザー、そしてもう一人ホームステイに来たマカオの留学生の四人で家はガーデンシティというショッピングモールの近くだった。

まだ地理の分からないうちはホストファザーに車で大学まで送って貰い、オーストラリアでの生活が慣れて来るとマカオの留学生と徒歩とバスで通学した。留学生に慣れているホストファミリーならとも角、お互い英語が第二言語のマカオの留学生とは話しくかった。通学時には大体40分くらいかかったのだけれど、その間会話が途切れてずっと無口で通学していた、ということも少なくなかった。英語で言い間違えようのない、How will you do after school? のような会話しかなかったのが当然なのだけれど、だから間違っちゃべつても構わないのでとにかく色々喋ってみた。出てくる単語の意味とかも違っていただろうし、何度も聞き返されたけれど、向こうも英語の勉強で苦勞している為か真剣に聞いてくれる。そう考えてなりふり構わずに喋っているといつの間にか学校へ着いているという自然な感じになれた。相手側も、自分の拙い英語を理解しようと真剣になってくれていた。

休日には四人でゴールドコーストに行った。車で送ってもらい南のニューサウスウェールズ州の方まで行った。いわゆる州境に。州境ではクイーンズランドではサマータイムは導入されておらずニューサウスウェールズでは導入されているため混乱するなど、土地の色々なことを教えて頂いた。この他にも教会に行き賛美歌の意味を教えて頂いたし一人旅のアドバイスも受けた。

家での生活は水不足によりかなり不便な思いをした。シャワーは4分間で9時以降は駄目。皿洗いや水を流しながら濯ぐのではなく、水を溜めてそこに

浸すだけ。洗濯は週に1~2回で個人で勝手に洗えるのは下着類だけ(最初は下着も駄目と言われたが頑張っただけ)。ダムの水ももうすぐ底を尽くので法律で厳しい節水が心がけられていた。またオーストラリアでは日本以上にプライベートを大事にする。洗面所のドアを閉めて使い、使い終わったら開けておくという具合にプライベートはお互いに干渉せず、またそのような環境にし易くなるようにルールが決められていた。

ホストファミリーではたまに留学生との間に大きなトラブルが生じることもある。でも話せば親身に聞いてくれる筈だ。とにかく思いついたことを拙いながらも喋ることが大事だろう。家での時間は思ったより持て余しやすいので積極的に話して英語に触れてみるといいと思う。

(山田 晴文)

空港に Griffith 大学の引率の方が見え、そこから私たちの大学ともう一つ神戸海星大学という関西の大学の人と一緒に、バスで大学まで向かいました。大学に着いて軽く説明を受けた後、各自ホームファミリーとの対面になりました。自分の名前が書かれた紙をもった人のところへ行き、自己紹介をしました。私のところはマザーが待っており、自己紹介をするなりマザーがほっぺに KISS してきてくれたことには驚きました。そのあとホームに移動して、家の案内をしてくれ、いろんな説明をしてくれました。英語の聞き取りがまだ不安で焦ったけれど、部屋に家のルールが書かれた紙が置いてあったおかげで理解できました。いままでにもたくさんの留学生を受け入れているらしく、部屋には中国らしき物や、韓国らしき物などもあり、中国語や韓国語で書かれたパンフレットもありました。

私のホストファミリーは70を超えた老夫婦でした。マザーは今では専業主婦なようで、初め私は料理を作るのを手伝おうとしたけれど、これは私の仕事だからと言って手伝わせてもらえませんでした。無理を言って手伝うこともないと思い、いつもただ出てくるのを待つだけになっていました。マザーの作る料理はとても美味しく、夕食が楽しみで仕方ありませんでした。オーストラリアの夕食はやはり肉料理が中心でした。だけど、昼ごはんには、サラダとフルーツだけだったり、サラダハンバーガーだけだったり、ヘルシーなものも多かったです。

朝ごはんはパンとシリアルを自分の好きなだけ入

れて食べる、というものでした。私の家は学校から遠い所にあったので、バスがほとんどありませんでした。一日に朝夜3本ずつしかなく、そのバスもあまり当てにならないものでした。乗り換えもありややこしいので、私は毎朝50分程度歩くことにしました。帰りは暗くて危なくなるので、早目に帰らなければなりません。夜までみんなと遊びに行くときには、前もって言うておけば迎えにいつてあげると言われ、申しわけなかったけど、何回かお願いしました。一人旅に行ったときも、空港まで送ってもらいました。自分一人で遊びに行ったりするのは控えなければならぬ気がして、外で楽しむことができなかったけれど、家にはバスケットボールもあり、家でも十分楽しむことができました。さらに私の家には留学生用のパソコンがあり、日本語を打つことができました。

私がいる間、偶然にも日本人の留学生が二人いました。一人は初めの三日間だけだったけど、その人から家の決まりについて詳しく聞いたり、オーストラリアの見どころを聞いたりすることができました。もうひとは最初から最後までいて、一緒の大学だったため、朝一緒に学校まで歩いて行ったし、バスケットしたり、夜ゲームをしたり、休みの日にリバーサイドマーケットに行き、帰りに映画を見たりもしました。

ホストファミリーとのコミュニケーションが多く取れるのは、朝食と夕食でした。

マザーがいろいろ話しかけてくれるし、今までの人たちのオススメの話などをしてくれたので本当に良かったです。日本だけでなく、中国のこと韓国のことなど、いろんな文化の違いについても話が聞けました。毎日のように今日はどんな日だった?と話をふってくれるので、帰りのバスで一日を振り返り話すことを考えていました。一つ話すだけでどんどん話題が広がるので、たくさん話すことを準備しておくといいと思います。

9月2日が父の日で、親戚が集まって外で朝食を取りました。一人ずつファザーにお祝いして楽しそうに話している姿はとてもほのぼのしました。私も、もう一人の留学生と話し合い、ファザーの大好きなチョコレートと手紙を渡しました。本当の家族のように接することができ、いい思い出になりました。

ブリスベンでは深刻な水不足であるため、シャワーは4分と限られていました。シャワー室には砂時計

が置かれていて、自分で計るというものでした。熱さ調節もなかなかできず、とても苦勞し、水の大切さを嘯みしめました。

最後にファザーからはコアラのぬいぐるみ2つ、マザーからはマザーの書いた絵と手紙を受け取りました。あなたは私たちの家族なのだから、またいつでも連絡して遊びに来ていいからね、と何度も何度も言われ、帰らなくてはならないことが寂しくなりました。普通には会うことのない家族と、こうして出会うことができた感謝と喜びを忘れることができません。



(牧田 真奈)

私のホストファミリーは、ホストファザーのモツヒ、ホストマザーのジャネット、12歳のアダム、11歳のエンジー、5歳のヤスミンの5人家族でした。最初の3日間は韓国人留学生のソーヒャンも一緒に暮らしていました。

私は初めての海外だったので、最初の3日間は不安なものとわからないことだらけで大変でしたが、ホストファミリーのみんなやソーヒャンが私を励ましながら丁寧に教えてくれたので、安心して暮らすことができたし、すごく優しくて明るい家族だったのでホームステイを楽しむことができました。バスの乗り方を何回も教えてくれたり、マニキュアでカーテンと床を派手に汚してしまった時も気にしないでと言ってくれたり、私が物干し竿に背が届かなくて困っていたら、小さいものを買ってきてくれたりしました。私のホストファミリーやソーヒャンは私に本当の家族のように接してくれたので、気を使うことなく生活することができました。

朝食はたまにマザーがパンケーキや目玉焼きに近いものを作ってくれましたが、いつもはシリアル



を食べ、私はマザーが入れてくれる紅茶が好きだったので毎朝紅茶を入れてもらっていました。昼食と夕食はいつもマザーが作ってくれました。夕食後はいつもフルーツやアイスクリームなどをだしてくれました。みんな食欲旺盛なので、頻繁に食べ物をすすめてきたり、全部食べれなくて、最初のころは戸惑いと申し訳ない気持ちでいっぱいでしたが、だんだん慣れてきて、おかわりまでするようになりました。

洗濯は自分でしましたが、洗濯機が強い上に洗濯ネットをあまり持っていかなかったため、服が傷んだり穴があいたりしました。

バスルームは私専用で、いつでも使っていていいと言われたので、私はよく朝お風呂に入っていました。

私は全然英語が話せなくて、拙い英語とジェスチャーだらけでしたが、子どもたちとはいっぱい遊んだのでここには書ききれないほどの思い出がありますし、ファザーやマザーとも、たくさん会話をすることができました。

ホームステイをして、人に感謝をする心や、人を思いやる心を学ぶことができたので本当に留学してよかったと思います。

(市原 早耶香)

私がお世話になったホストファミリーは、ホストマザーのNadaの一人暮らしでした。そして、中国人留学生のMarcia(21)がいました。最初に家に着いた時、マザーは笑顔で玄関まで迎えにきてくれました。緊張と、どう話していいのか分からず、初めは自己紹介もまともにできませんでした。それでも、マザーはゆっくり話してくれたり、何度も繰り返して話してくれました。Marciaは私



よりも長くスティしていたので、バスの乗り方、学校への行き方、買い物におすすめの場所などを教えてくれました。また、毎朝一緒に学校へ行きました。私がマザーと話していて、なかなか伝わらない時には助けてくれたりもしました。

マザーの趣味は料理でした。そのため、ご飯は食べられないだろうと思っていたのですが、夕食にはアジア系の料理をたくさんつくってくれました。毎日ランチも用意してくれました。ランチはほとんど前日の夕食のメニューと同じでしたが、フルーツやクッキーも一緒に持たせてくれました。マザーは「あなたはお客さんじゃなくて、家族なんだから自

由に食べたり飲んでいいのよ」と言っていたので、食べ物は好きな時につまんで食べていました。洗濯や掃除などの家事は「手伝おうか?」と聞いても、「私の仕事だから」とマザーがすべてしてくれました。

毎日学校から帰ると、「学校はどうだった?」と聞いてくれました。なので、私は家に着くまでに話すことを英語で考えながら帰りました。最初は正しい英語で話さなくてはと気にしすぎて会話が続きなかったけれど、生活に慣れてくると単語だけでもいいからとにかく声に出すようになりました。どんなに下手な英語でもちゃんと聞いてくれました。英語が上手くできなくても頑張って伝えようとするのが大事だということを実感しました。夕食の後には、テレビを見ながらよく話をしました。日本についてよく聞かれましたが、私は日本の政治、文化について詳しく説明できるほど知らなかったので戸惑うこともありました。英語を話すこと的前提に知識が必要だと思いました。

ホームスティで、海外旅行では味わえない海外の生活を経験することができたことを嬉しく思います。最後の夜、マザーに「Good Luck」という意味のアクセサリーをもらいました。私の宝物です。

(勝 明美)

休日・放課後

モートン島

週末にサマースクールのメンバー全員でモートン島に行ってきました。着いてすぐに船に乗ってホエールウォッチングをしました。わたしたちは運がよかったらしく、たくさんのクジラを見ることができました。間近で見るとクジラはとても迫力があり感動でした。船がとても揺れてジェットコースターのように楽しかったけれど、途中から船酔いになってしまったので大変でした。酔い止めは必須です!!

島に戻り、夕飯の買い出しなどをして海で遊んだあと、イルカの餌付けをしました。一人三匹しか魚を上げられなかったけれど、野生のイルカと触れ合えてとてもいい経験ができました。ひざまで海につ

かるので下に水着を着て行きましたが、とても寒かったです。夜は一つの部屋にみんなで集まり夕御飯を作りました。お皿や鍋などは置いてあったものを使いました。モートン島はとても星がきれいで、



流れ星もたくさん見ることができました。

二日目はそれぞれ activity をしました。私はあまりお金がなかったので、パラセーリングしかしなかったけれど、他にも砂すべりやジェットスキーなどいろんな activity がありました。パラセーリングではとても高いところからモートン島の海を見下ろすことができました。残り時間は海で遊びました。まだ泳ぐには早かったらしく寒かったけれど、とてもきれいな海と砂浜で遊べて楽しかったです。

(松井 亜美)

ゴールドコースト

ゴールドコーストというところはとても有名なので、知っている人も多いかもしれません。

長く続く海岸沿いにたくさんのビルディングがたっていて、日本ではなかなか見られない景色を見ることができるところです。そして何より、海がきれいです。私たちが行ったのは、ゴールドコーストのサーファーズパラダイスというところで、その名の通りサーフィンにもってこいの場所だそうです。しかし、なにもサーフィンをするためだけの場所というわけではないので、泳いでいる人もいれば、浜辺でのんびりする人もいました。私たちの中でも、泳いでいる人たちがいました。(日焼け止めはちゃんとぬっておいたほうがいいです。)先に書いたように、たくさんのビルがあるのですが、その中にはホテルだけでなく飲食店やショッピングができるところがたくさんあって楽しいです。街角で売っているアイスクリームがとてもおいしかったです。

また、ゴールドコーストといえば海のイメージが強いのですが、私たちは山の方にある国立公園へ



行って「ツチボタル」というのを見ました。ホテルといってもホテルではなくて、夜になると洞窟の中で光る虫の幼虫です。一歩洞窟の中に足を踏み入ると洞窟の天井では満点の星が輝いているようでした。とても幻想的で、有名なアニメ映画の一場面のモデルになったところです。

ゴールドコーストはみんなが住んでいるところの近くにあるサウスバンクという駅から電車とバスを使って約1時間半で着きます。ゴールドコーストで楽しい休日を過ごすのも楽しいですよ。

(仲村 友里)

ノースストラッド・ブローケンアイランド



ショッピングなどにでかけましたが、その中でも特に印象に残っているのは島への旅行です。ノースストラッド・ブローケンアイランドという島に旅行にいきました。僕たちが行った時期はちょうどスクールホリデーと重なっていたため観光客は結構いました。その島にはとてもきれいなビーチがあり、運がいいとそこからでもホエールウォッチングができるとのことでした。僕たちはその島の話をして City の旅行会社で仲良くなった日本人に聞いたのですが、その人たちが言うにはその島はとてもすいているため予約をしなくても宿があるらしく、僕たちはちょっと冒険のようなつもりで予約なしで行くことにしました。

しかし、いざ行こうと駅に行ってみると電車がその日に限り止っていました。結局当初の予定より3時間遅れで島に行くことはできましたが、オーストラリアはお店が開いている時間が短いのでリセプションも早い時間から閉まってしまう、僕たちは宿もな

い状態で一夜をすごすことになってしまいました。とりあえずご飯を食べようとバーとカフェがくっついているお店に行き、受付でカードに記入しているときに受付のおばさんに旅行中なの？と話しかけられ、それまでのいきさつを話すと、おばさんは私がホテルに電話して聞いてあげるから中で待っていてととても親切に対応してくれました。そのやり取りを横で聞いていたおじいさんが中にご飯を一緒に食べようと誘ってくれたので、少し不安はありましたがおじいさんと一緒に食べることにしました。話を聞いていくとおじいさんはその店の常連らしく、いろいろと面白い話を聞かせてくれました。ちょっとすると受付のおばさんから宿はあったけれど1泊\$175すると聞かされ、僕たちが考えているとおじいさんが「そんなにお金ないだろ？だったら私の家を貸すから使えばいい。」と言ってくれたので、お言葉に甘えて泊めてもらうことにしました。

おじいさんは山の中でキャンピングカー暮らしをしていて、1つは自分の生活用、もう1つはゲスト用と2つ持っていて、そのうちの1つを好きに使っていいと言って貸してくれました。おじいさんはエンジニアだったので車では電気も水も使えて不自由なく生活でき、本当に助かりました。またおじいさんは僕たちのことをマイフレンドと呼んでくれ、オーストラリアの人の優しさにとっても感激しました。他にもたくさんの思い出がありますが、この旅行で感じたのは言葉は違っても同じ人間なんだということでした。バスを間違え困っているときに親切にバスルートを教えてくれたり、人気の少ない道を歩いていると気をつけろよと声をかけてくれたりと孤独感を感じることはなかったです。海外にいて困ったりわからないことがあったら、まず聞いたり話すことが肝心なんだと感じました。

(石川 総真)

River Fire

9月1日にシティを流れる Brisbane River 沿いで River Fire という、その名の通り、川沿いで花火が打ち上げられるというお祭りが開催されたので、サマスクメンバーで行って来ました。その日は土曜日で学校が休みだったので、朝から昼食に BBQ をしようと張り切って出かけました。しかし、出掛けた時間が遅かったのか、出掛け



てから材料を買い揃えていたのがいけなかったのか、すでに公園にある BBQ コーナーは人で埋まっていました。シティにはたくさん公園があり、なおかつ BBQ コーナーがそこらじゅうにあるので、「探せばあるよね」というノリでそこらじゅうの公園をさまよいましたが、どこも埋まっていて、空いている BBQ コーナーにたどりついた時には昼食の時間ではなく、おやつの時間でした。それでもみんなで作った焼きそばや BBQ はとてもおいしかったです。私たちが BBQ をした場所はたまたま川沿いだったため、BBQ が終わってからもその場に陣取り、そのまま花火が始まるのを待ちました。

川沿いの花火というと、長良川の花火を連想しますが、同じ川沿いの花火でも River Fire は大分違いました。まず、花火の開始を告げる飛行機が火を噴きながら Brisbane River の上空を横切り、その後、ビルの上や橋の上から次々と花火が打ち上げられます。日本ではビルの上から花火が打ち上げられるところなんて見たことがないので、とても新鮮でした。また、花火自体も外国的なデザインで、蛍光ピンクや蛍光紫など色も日本とは違いました。花火が上がっている間中、歓声が絶えず、時折拍手が聞こえるところなども日本と違いましたが、「感動を素直に表現することは素敵なことだなあ」と思いました。

このお祭りは春の風物詩らしいのですが、偶然にもその場に居合わせる事ができてラッキーだったと思います。

(中川 真基子)

放課後



平日はクラスメートと遊んでいました。金曜日は学校が早く終わるのでBBQをしました。ブリスベンには無料で使える公共の鉄板があったので材料を買えば、いつでもBBQを楽しむことができます。韓国人の友達は韓国風BBQを作り、日本人は焼きそばといった具合で違う国の料理が一度に味わえました。一緒に調理したり、お酒を飲んだりすることでクラスメートの授業中とは違った一面も見ることができます。

日本に帰る前日には台湾人の友達がホームパーティーを開いてくれて、手料理をごちそうになりました。本場の中華料理はとにかく辛く、麻婆豆腐に唐辛子や香辛料がたっぷり入っていてビックリしましたが、それでも味は大満足。食事の後はWiiやトランプ、麻雀をして過ごしました。麻雀はルールが日本と微妙に異なるため完敗。トランプはそれぞれの国のゲームを教えながら大人数で楽しみました。僕は富豪を教えようと試みましたが説明が上手くできず、自分の英会話のできなさを再認識しました。

僕はよくブリスベンの中心地(City)に遊びに行っていました。Cityのお店は金曜日以外はだいたい五時過ぎには閉まってしまうので学校帰りにすぐに向かっても、たいして見て回ることができませんでした。お金がなくてもシティーホール、博物館、美術館、裁判所などの施設は見学することが可能です。Southbankにある映画館は5ドルで見ることができるのでおすすめです。日本では公開されていない映画を見ることができるのでちょっと得した気分です。

Cityは夜になるとお店が閉まるので行くところはクラブかカジノくらいしかありませんでした。僕

はブリスベンに詳しい友達がいたのでいろんなクラブに連れてってもらいました。クラブでもカジノでもお酒を出す場所なのでパスポートがないと入店することができません。あとカジノは帽子やサングラス、迷彩柄の服装では入ることができません。友達が軍バンで入店できませんでした。聞いた話ですが、同じグリフィスに通っていた中国人がカジノで40万負けたと聞きました。カジノで遊ぶときはほどほどに。

(又吉 政張)

LONE PINE

せっかくオーストラリアにきたのだから生でコアラが見たい、ということでブリスベンならここがお勧めといわれてローンパインという動物園に行ってきました。ローンパインへはCityからバス一本で行けるため方向音痴なわたしでも行くことができました。バスに揺られること約30分、ローンパインに到着。乗り物酔いで気持ちが悪くなっていただけど着いたことでテンションが上がり気持ち悪いのも忘れてしまいました。入場料は大人一人17ドルでした。トラベラーズチェックも使えます。

はじめにバードショーを見ることに。鳥が飛んでました。あれはたぶん鷹とフクロウです。次にカンガルーに直接触れるふれあいゾーンに突入！カンガルーは人間に慣れているみたいで、近づいても逃げずの様子もありませんでした。触ってみても嫌がることもなく簡単に写真も一緒にとることができました。

シープドッグショーはたくさんの羊を放して、それを犬が追いかけて柵に誘導するというものでした。犬に追いかけて逃げまどう羊たちはかわいそうでしたが、とても可愛らしく見えました。

ここでやっと主役のコアラの登場です。たくさんのコアラが園内にいましたが、ほとんどが寝ていました。コアラは夜行性らしく、昼間は主に寝ているそうです。でもたまにユーカリの葉をムシャムシャと食べているコアラもいました。有料ですが、コアラを抱っこして記念撮影もできます。もちろん私も抱っこして写真を撮ってもらいました。楽しめたのでおすすめの動物園です。ちなみにバスは一時間に一本しかないので注意して下さい。

(松井 亜美)

一人旅について

私はどこかで飛行機を使った一人旅を試みたいと思っていて、シドニーに行ってきました。NAVITOURというCITYにある日本語のわかるお店に行って、飛行機と宿、1つツアーを手配しました。あまり情報もなく、やりたいことはある程度は決めてあるものの、自由時間として計画しました。朝早くブリスベンを出て、次の日の夜に帰ってくることにしました。行き帰りの時間だけはきちんとしようと思い、パソコンでいろいろ調べました。でも、行きはAIRTRAINという空港行の電車を利用したけれど、帰りはマザーに迎えにきてもらえることになりました。一人で電車、飛行機というのには、不安はあるけれど、楽しみで仕方ありませんでした。実際、国内線の飛行機は全く難しいことなく、とてもスムーズに行くことができました。

私は今回バックパッカーズのシェアルームに泊まり、他に2人の韓国の女の子、1人の日本人の子と一緒にいました。彼女たちと一緒に夕食に行ったり、そのあと夜景を見に行ったりして、仲良くなることができました。日本に帰ってきた今も連絡を取り合っています。片言の英語ではあるけれど、お互いの文化交流や考え方など日本にいただけではわからない話もできました。

一人旅をするとすべての選択は自分にあり、自由の裏には責任という言葉がついてきます。周りの人に道を聞かなければならなかったり、友達との会話だったり、英語ができなければ始まらない面も多々ありました。英語ができなくてもどうにかあります。でも、もっと英語が話せたらいいのに、もっといろんなこと聞いてみたい、そんな風に思えます。やりたいと思ったことを行動に移すこと、質問があれば聞くということ、自分はどうしたいのか考えること。たくさんの人に出会って、たくさんの景色をみて、たくさんの文化に触れることができ、この旅は本当に貴重なものとなりました。なにが得られたのかは確かには言えないけれど、一つ言えることは、度胸がつかえました。行動することについて、怖気づいてばかりではもったいないです。自分ですべて計画する一人旅を試してみてください。きっといい経験になります。

(牧田 真奈)

9月の3週目、学校を休んで1泊2日の1人旅に行った。行った場所はエアーズロック。1泊2日なだけで10万円ととても高かったので行くか迷っていたが、ある友達の一言で行く決心が付き、オージーナビというところで飛行機の手配、ツアーの申し込みをした。日本でも1人旅なんてしたことがないし、日本語も当然通じないので行く前日はとても緊張した。

出発当日、朝3時に起き、ホストマザーにお願いして4時に駅まで連れて行ってもらった。電車も1人では乗ったことがなかったから最初は緊張したけれど、案外余裕に乗り継ぎもできて空港に到着した。そして手続きをいろいろ済ませ、搭乗。エアーズロックへはシドニーで乗り継ぎをして、約5時間かけて到着した。機内では、となりの席に座っていたイギリス人の夫妻と知り合い、サッカーの話題などで盛り上がりたりしてけっこう話すことができた。一緒に写真も撮らせてもらったし楽しく過ごせた。



順調にエアーズロックに到着したのはよかったが、ここからが大変だった。自分の荷物が到着するのを待っていたがなかなか来ない。だんだん心配になってきて聞いてみたところ、荷物だけシドニーに置き去りにされたと言っていた。最悪だと思った反面、けっこう航空会社の人と普通に会話できたことが嬉しかった。親切に対応してくれたし、まあこれも1人旅の醍醐味だと前向きに考えて荷物がないままツアーに参加した。

ツアーは風の谷へ行ったりエアーズロックの日の出や夕日を見るツアーで、全部で15人参加してい

た。内訳はドイツ人8人、日本人4人、アメリカ人3人だった。最初は同年代ということもあってたまたまそのツアーに参加していた日本人と話していたが、いろんな人と話せるようになった。特にドイツ人2人と話すことが多く、マシュマロが食べれないという話やら日焼けが大変やら、いろいろ話してくれた。ツアーのガイドさんもいい人で、とてもノリが良かった。もちろんそこで食べたステーキや、夜見たサザンクロス、地平線やエアーズロックは最高だった。

景色を見たりするのももちろんいいが、1人旅の醍醐味は一期一会の出会いだと思う。機内で話した夫妻、航空会社の人、ガイドさん、そしてツアーに参加した人。ツアーで出会った静岡出身の人とは、今でも遊んだり泊まりに行ったりと交流があるし、出会えて本当によかったと思う。少ししか一緒にいられなかったけれど、そこで話したことや一緒に行動したこと、はしゃぎまわったことはとてもいい思い出だし、一生忘れない経験になるだろう。1人旅にハプニングはつきものだが、そんなものは怖がらずに絶対行くべきだと思う。



(鈴木 一輝)

このサマースクールの間、一人旅も体験した。自分の英語力がどれくらいなのかを試したかったこともあるけれど、日本でも経験したことが無いことを何かやってみたいという感じで一人旅を楽しむことにした。場所はシドニーで1泊2日。HISでツアーとホテルも日本語で申し込んだ。合計で約A \$550だった。飛行機代でA \$260、ツアーが朝7時から夕方4時まででA \$140と少し高いけれど、ツアーはあまり安いのにすると見所を通り過ぎるなど満足できない場合があると聞いた



ため、旅行会社の人や事前にホストファザーとじっくり相談して(と言ってもホストファザーには「海でないところで良いところはどこ?」と聞いてシドニーと決まったという程度だが)高めのツアーを申し込んだ。出発は丁度11時。用心の為にチェックインの1時間前には十分着くような時刻で申し込んだ。実際に電車に乗り間違えたため、この時間は有効になった。シドニーへの飛行機は約1時間半かかった。昼中に着いたので閉店時刻までチャイナタウンを散策してホテルへチェックインに行った。この間ずっと英語でやり取りをしていたのだけれど、なかなか聞き取り辛く何回も聞いた。ホテルの中でチャイナタウンのお勧めのレストランを聞きそこで食べた。

次の日、ほぼ1日のツアーに参加した。場所はシドニー近くの大山地のブルーマウンテンとその近くにある小さな街のルーラというところへ行った。ブルーマウンテンではトロッコとロープウェイに乗った。トロッコはほぼ垂直落下状態で走り、ロープウェイは床がガラス張りになって地上300mから大自然を下ろす格好になる。ここには有名な岩でTHREE SISTERSという岩がある。崖に3つの岩が立っているのだが、これにまつわる御伽噺をガイドに聞かせてもらった。また、この日は快晴で遠くの景色が青く霞がかっているのが見え、まさに絶景だった。ルーラはアンティーク好きな人なら何時までも楽しめる町だ。クリスマスグッズや色々な種類のお菓子も売っている。例えばハンバーグ型のマシュマロとか。週末には家族で遊びに行くと、楽しむ街でなんと云うかわいらしい街だった。

実際に行ってみて数々のトラブルに遭った。ただ、困ったことがあれば係員の人に聞けば何とかなるし、向こうから訊ねてくれることもある。その人

など、その日に会った人と話して仲良くなったりも出来、いい経験が出来た。

(山田 晴文)

私は4週目の週末に一人でエアーズロックに行ってきました。エアーズロックに行くことは小さい頃からの夢だったのでとても楽しみでしたが、女の子一人であることや、私の場合出発時刻がとても早く、タクシーを使わなければいけないこと(オーストラリアのタクシーは割高なうえにあまり安全では無いそうです)や、飛行機の乗り継ぎがあったこともあり、ホストファミリーにはすごく心配をかけてしまいました。しかし、旅先では、多くの方が一人で来ていましたし、そこで新しい友達を作ることができ、今でもエアーズロックで仲良くなったイギリス人の子とはメールのやり取りをしています。また、ツアーの迎えが集合時間になっても来ず、2時間近く待たされるというハプニングもありましたが、周りにいた人に話しかけて協力してもらえ、どうにか合流できたことで度胸もつきました。

一人旅では、実際に一人で行かなければ学べないような事や経験がたくさんあり、本当に一人旅にいてよかったです!!

(浅野 由莉)



短期留学(サマースクール)参加者アンケート

1. 先方の大学での研修について

- a. 履修した授業の内容(科目, 授業の概要等)とそれぞれの満足度を1~4点で書いてください。

平均 Writing (レポート, 手紙の書き方, 日記・物語の作成, 自分の意見を書いたりする, 新聞などの記事についての review, 好きな映画の紹介, 自分のヒーローについて, 自分の市について)

3.5点 (回答13人)

Reading (本, 新聞記事, 教科書やプリント, 雑誌, 読解)

2.8点 (回答11人)

Speaking (クラス中で発表, テーマについて話し合う, ディスカッション, 授業中の会話等, ペアになって自分の意見を話したりディベートをしたりする, ゲーム, プレゼンテーション, 現代社会問題について)

3.6点 (回答10人)

Listening (映画鑑賞, 教材のテープ, NEWSの聞き取り, ラジオ, TV, インタビュー, 授業そのものがlistening, ビデオ, 未来の道具, 先生が言う質問, 音声の聞き取り, 曲の歌詞の聞き取り)

3.5点 (回答11人)

Grammar (中高レベルのもの, 付加疑問文, 現在完了形, 動名詞, 不定詞, 冠詞)

2.3点 (回答6人)

SAC (Self Access Computer: 自由学習, 雑誌をよむ, DVDをみる, パソコンなど)

3.4点 (回答7人)

Computer (PCを使って調べ物・文章を書く, ニュースを見る, 文法のゲーム)

3点 (回答3人)

Language lab (PCを使って個人で好きにリスニングの練習・文法の練習・ニュースを見る)

3点 (回答2人)

Integrated Skills, Reading & Writing,

Speaking & Listening (映画, 文法, 対話, 作文, ゲーム等)

3点 (回答1人)

Reading & Writing (文法, 文章を書く, ストーリーを読む)

2点 (回答1人)

Speaking & Listening (話す, 聞く)

3点 (回答1人)

- b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満足度を1~4点で書いてください。

平均 ゴールドコーストツアー

4点 (回答1人)

バドミントン

3点 (回答1人)

サマーパーティー

2.5点 (回答2人)

市内バスツアー

3.5点 (回答2人)

オリエンテーション&市内観光

2点 (回答1人)

Brisbane 案内

2点 (回答1人)

- c. 先方の受入れ体制について

- ・生活面でどんなことをしてくれましたか?

- * 遅れて参加した時に丁寧に教えてくれた。
- * 入学, 出国時の行動の説明, 送迎, 帰りの飛行機の案内
- * アクティビティに関して (の世話)
- * 特に問題もなかったのも, それほどお世話になりませんでした。
- * 毎朝ランチの準備をしてくれた。色々な話をしてくれたため問題は全く無かった。
- * 食事の用意。バスの乗り方を教えてくれた。
- * 大学へ案内
- * 料理, 洗濯

- * 食事の用意や洗濯
- ・勉強面でどんなことをしてくれましたか？
 - * 授業
 - * クラスの担当教員でした。
 - * SAC ルームの時に speaking と reading を強化したいと言った私にアドバイスをくれた。
 - * 英語の授業をしてくださいました。
 - * 質問すると丁寧に答えてくれた。問題は無かった。
 - * 課題のチェック
 - * 作った話を話してくれて、私がそれを聞き取り、書き下す練習をさせてくれた。
 - * アドバイス
- ・その他で頼りになる人はどんなことをしてくれましたか？
 - * 5階のレセプションルームに行けばなんでも説明してくれます。

d. 留学期間について

適当 6人
長い 1人
短い 7人

e. その他授業について困ったこと、先方に対する要望等自由に記入してください。

- * グラマーが簡単すぎた。
- * クラスでネイティブは先生一人。クラスメートはみな、かたことの英語をしゃべり、なまりが強かったり、発音が間違っていたりするので、聞きとるのはかなり困難だった。ネイティブともちゃんとしゃべれないのに、そのような環境下ではたして上達するか疑問だった。
- * 10週間で1クールみたいな感じで私達は後半の5週間に参加したのでたまに前半の話とかされるとよくわかりませんでした。
- * 自分のクラスはほとんど中国人だったため、授業中でもよく中国語が聞こえたのになかなか改善されなかった。
- * 私のクラス (GE2B) には、Speaking はとてもよくできるが Writing が全くでき

ない人たち (特に中東系) と、Reading や Writing はよくできるけど Speaking ができない人たち (東アジア系) がいた。国際色豊かであるのはとてもよいことだと思うが、スキルによるレベルの差がありすぎて、授業によってはとてもつまらない内容のときがあった (例えば、日本人にとってのこのレベルの文法はとてもつまらない、サウジアラビア人にとってはこのコミュニケーションはつまらない、など)。

- * 先生のうちの1人がオーストラリア人だったのと、とても早口だったのでとてもききとりにくい英語でした。
- * 先生が好きではありませんでした (月、火、木の先生)。すごく不親切でした。質問をしてもすごく軽く流されました。
- * Reading と Grammar のレベルが低い。Speaking と Listening にもっと力を入れてほしかった。
- * 先生を選ぶことができなくて、先生によって、楽しさ、勉強量がすごくちがうこと。
- * 最初のうちは、先生が言っている事があまり聞き取れず、宿題などもよく理解できず、同じクラスの日本人の子に教えてもらってました。

2. ホームステイについて

1部屋約 6畳7人 7畳1人 8畳1人 10畳1人 20畳1人

a. 部屋にあった設備を記入してください。

ベッド, ダブルベッド (ヒーター付), 勉強机, 椅子, クローゼット, ドレッサー, タンス, スタンド, カーペット, 扇風機, ハンガー, テーブルライト, ティッシュ箱, LAN (USB) ゴミ箱, 目覚まし時計, CD オーディオ, 鏡, 洗濯かご, 本棚, パソコン (使えないもの), バスルーム, 物干し竿, ソファ, ベッドサイドテーブル, インターネットプラグ, 電源×3, テレビ, ラジオ, DVD

自分の部屋ではないけれど、留学生専用のリビングがあって、そこにはテレビ, キッチン, 冷蔵庫, パソコンがありました。

b. 食事はどうしていましたか？

- * 朝食・・・家でシリアル, 昼食・・・弁当(主にサンドイッチ), 夕食・・・外食もあったが殆ど家で米料理を作ってくれた。
 - * ホストマザーが全部作ってくれた。
 - * 朝・昼は自分で作り, 晩ご飯はマザーか、娘が作ってくれた。
 - * 朝食は自由に食べる, 昼食はお弁当をもたせてくれて, 夕食は家族がつくってくれた。昼食のお弁当はたまに自分でつくっていた(お母さんの分も。私が一番早く起きるので)。外出してる時はレストランとかで食事していた(もちろん自分もち)。
 - * ホストの人が作ってくれたり, 外食したり。
 - * 朝と昼は自分で作り, 夜は家族が作ったものを家族と一緒に食べました。
 - * 朝食は自分で好きな物を, 昼食は弁当を用意してもらって夕食は毎回準備してもらった。
 - * 朝食はシリアルかポリッシュで, 自分で用意して食べていた。昼食は朝起きるとお弁当が用意されていた。サンドイッチと果物にお菓子少しというパターンが多かった。お菓子は学校のモーニングティータイムに食べていた。夕食は家族全員で食べていた。
 - * 朝は自分でパンとシリアルを食べ, 昼はホストマザーが用意してくれたお弁当をもっていき, 夜は, 家でホストマザーが作ってくれたのを食べていた。
 - * 朝は自分でシリアルを用意し, 昼と夜はマザーが作ってくれていました。夕食後はフルーツやアイスクリームをだしてくれたりしました。
 - * 毎日つくってくれました。
 - * ホストファミリーが作ってくれた。たまにCityで食べた。
 - * 朝:シリアル, パンを好きなだけ食べる。昼:ごはんを持たせてくれる。夕:作ってくれる。
 - * 作ってもらった。
 - * 平日は家族の人と一緒に食べてました。
- c. ホームステイ先での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。
- * シャワーの時間が短い。水をあまり使えないので皿の洗いが雑。
 - * 防音設備がなかったので, 朝早くや夜に物音を立てないように大変だった。
 - * オーストラリアでは水が貴重なのでお風呂は4分,(守りませんでした)飲料水が高い。
 - * 洗たく物がいつまでも洗たく機に入ったままで, 自分の服がなかなか洗えなかったこと。
 - * 小さな困ったことはいくつかあったが, その都度聞けばなんとかなった。ステイ先のネコに気に入られなかった。洗面所に巨大バツタが出た。パパと政治の話をしていたが, 専門用語がわからなかった。洗濯機のパワーがすさまじい。ネットに入れていたけど, 服がボロボロ・・・ボタンがとれたものもあった。
 - * シャワーの時間が短くて大変でした。
 - * 食事があまり合わなかった。
 - * 門限が早すぎる。学校から遠い。
 - * バスが少なく, 時間にルーズで困った。
 - * ホストファミリーは, 朝おきるのが基本的に遅めだったので, はやく起きすぎてしまった時などは非常に気がつかいました。
- d. ホームステイについて良かったこと・悪かったこと, 要望など記入してください。
- * あまり英語に自信がなかったので「英語の勉強について支援してほしい」と頼んだら, 夕食の時にオーストラリアの生きた英語(つまらない人のことをlemonと言う事等)を色々教えてくれた。
 - * もう一人留学生(マカオ)が住んでいたがその人の起こしたトラブルに巻きこまれた事。具体的に言うと, 鍵を変えられて5:30以降でないといふられなくなった。
 - * ホームステイだったので旅行感覚ではなく, 生活していると実感することができました。
 - * ホームステイ先が女性しかいなかったのので, 積極的に会話ができなかった。みんな忙しそうだったので基本的には全てのことを自分でやってみました。よくいえば自由, 悪くいえば放置。それでも他の所と比べると

と良い方だと思います。

- * あまり干渉してこない家族だったのでとても自由に過ごせて快適だった。ただ、水不足のため、シャワーや洗濯が制限されていたのが不便だったけれど、特には問題なかった。私の家ではパソコンを自由に使用してもらえたので、旅行の予定を立てたりしやすく、とてもよかったと思う。
- * 外食するかどうかと、帰りが遅くなる等の連絡を入れれば放任してくれたので友達とたくさん遊べてよかったし、家にいる時は、話しかけてくれたり、勉強のアドバイスをくれたり遊びに行く時の交通手段を覚えてくれたりして世話をやいてくれたのでよかった。
- * 私のホームステイ先には子供が2人いて、この子たちと会話したりするのが楽しかった。誕生日を家族みんなに祝ってもらえた。他にもう1人留学生がいて、その人とはあまり気が合わなかった。
- * よく話をしてくれて、聞いてくれた。
- * 夕食後にパパとよく話していました。内容は今日あったことや週末にあそびに行くところの話、オーストラリアと日本の文化についてなど軽めな内容から、政治や選挙の仕組みについての話、AIDSの子の話や胎児中絶などの重い話をすることもありました。ホストメイトの韓国の子も加わって3人で話すときは、三ヶ国間の比較ができたので特におもしろかったです。パパが「あゆみはオーストラリアに来て、寮やホームシェアリングではなくホームステイをする決めたのだから、ホームステイの利点である『オーストラリア人と存分に話ができる』ということを活かさないといけないよ。このように夕食後私と話をするのはお互いにとってとても良いことなんだ。あゆみは英語を話す機会になるし、私にとってはあゆみが何がわかって何がわからないのかがわかるからね。」とよく言っていたのが印象的でした。
- * ホストファミリーがオーストラリア人でなかったため、なまりのない英語で聞きやすかったことと、他の国の事をいろいろ知れたので良かったです。悪かったことは、家

が学校から遠かったことです。乗り物酔いがひどいので、毎日、不調でした。

- * 困ったことが起きたときはいつも助けてくれた。本当にみんながやさしくて明るい人たちばかりだったので居心地よくホームステイすることができた。
- * ホストマザーの誕生日のパーティーや友人とのあつまりに参加させてもらい、いろいろな人と関わって良かった。
- * カレーを岐大の子と一緒につくってたのしかったし、ホストマザーにも喜んでもらえてよかった。
- * やさしかった。きれいだった(家が)。設備がしっかりしていた。かぎがもらえなかった。就寝時間が早すぎ。
- * おいしいオーギー料理が食べれた。生活のちがいがよくわかる。シャワーは大変。
- * そこまでたくさん話を振ってくれる人ではなく、自分たちのやりたいことを自由にみんなやっていたので、会話する機会がそこまで多くなかった。
- * ホストファミリーは、留学生をうけ入れ慣れていたもので、とてもすごしやすかったです。また私の他にもう1人中国人の女の子がいたことも、とても良かったです。

3. 生活全般について、トラブルがあればその対応も記入してください。

トラブル

- ① カメラが壊れた、充電器を忘れた。
- ② Garden City から家 (wishart) までためしに歩いて帰ってみようと思ったら、道にまよって Eight mile plan まで行ってしまった。
- ③ マニキュアを塗っていたら、手がすべって大量にカーテンや床にこぼして汚してしまった。
- ④ 自分の降りるバス停がわからなくて、だいぶ遠いところに行ってしまうと帰れなくなった。
- ⑤ 道にまよった。
- ⑥ バスがなくなった。

相談相手

- ① ホームステイ先。

- ② 近くのお店の店員さんと常連客数人。
- ③ ホストマザー。
- ④ 一緒のバスに乗っていた夫婦。
- ⑤ 道ばたの人。
- ⑥ 留学生(同じ家の)

対応

- ① 店を紹介してもらったり、忘れた物を貸してくれた。
- ② お客さんのうち1人が車でステイ先まで送ってくれた。・・・ホストパパにめちゃくちゃいけなかった。知らない人の車に乗っちゃいけない、道にまよったら家に電話をかけなさいと言われた。
- ③ 全く怒らなかつたし、そのカーテンや床は汚れたままだった。
- ④ 家まで車で送ってくれた。
- ⑤ やさしくおしえてくれた。
- ⑥ 歩いて帰る(50分)。迎えに来てもらう。

4. 所要経費について(平均)

・支出総額 701,542円

(内訳)

- ・参加費(航空費・宿舎費含む) 488,500円
- ・食費 42,857円
- ・保険料 13,760円
- ・その他 188,571円

参加費について

とても高い1人 高い5人 適当6人
安い0人

5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。

(学内の諸手続きについて)

- * 全て学内で手続きできたのでよかった。
- * 最初に申し込みの用紙を提出するときクレジットカードやトラベラーズチェックについての紹介があると良かった。
- * 生協・留学生課がやってくれたので楽でした。
- * 保険について特に何のお知らせがなかったので入りわすれてしまった。出発前日に気が

が付いてネットで申し込んだが、生協の保険があるのでまた後日でいいですと言われていたため、保険について忘れていた。

- * 伊藤さんお疲れさまです。これからも妻ひとすじでがんばって下さい。保険についてがちょっとわかりにくかった。
- * 保険に入るのを忘れそうだったので、もう少ししっかりいってほしかった。
- * 簡単で安心だった。
- * 履修登録について。

(出発前の事前英語研修について)

- * 参加していた人が少なかったので少し残念でした。でも、ジャネットやジェニーはとても親切でした。
- * 参加者が少なく時間も遅かったためなかなか厳しかった。
- * 終わりがけになるにつれて参加者が減っていったと聞きました・・・思っていたほど良くなかった。プリントも字がずれて見えにくいものが多かった。だれが自分と同じサマスキのメンバーなのかわかりにくかった。留学LOVEのメンバーが来ていた。先生と内輪話をするから、ちょっと迷惑だった。
- * 事前研修は去年の人がいっていたほど魅力的ではなかったです。
- * 事前の英会話のレッスンの都合が合いにくかった。事前研修等で報告書の書き方や提出の仕方に関するレジュメをもらいたかったです。大切なことなので。
- * ホームステイ先の人がどのようにしてほしいかなど、きいておきたかった(ハンガーなどがいるかどうかで)。
- * あんまり事前研修に来ている人が少なかったため、行く前にはそこまで仲良くなれなかった。
- * どの先生もとてもフレンドリーでたのしかったです。

6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

- * 短期留学に参加して良かったです。平日は学校、休日は旅行や買い物と充実した夏休みでした。年齢や国に関係なく友達ができ

ました。お互い母国語は違うけど英語を使うことによってコミュニケーションできる。頭で分かってはいたことが経験として分かったので良かったです。もっと英語を勉強することが必要だと思いました。また、言葉についてだけではなく、日本がどれだけ恵まれているのか気付くことができたので良かったです。

- * コミュニケーションが上手くいなくてトラブルになったことは正直沢山あった。ホームステイ間のトラブルもよく聞いたし、授業でも先生の説明が分からなかった事もあった。でも最終的にそれらを含め、いい経験ができたと思えたし、十分じゃないながらも英語である程度のやり取りは出来るようになった。休日の旅行もつまらなかったという事もなかったし、満足のいく短期留学だったと思える。
- * 異なる国の人々と交流をしたことで価値観が大きく変わった。それと同時に異文化にもっと触れてみたい、互いにより理解したいと感じた。その為に自発的に英語を学びたいと考えるようになった。
- * 色々な経験が出来て良かった。今でも連絡をとりあえるような外国の友達が出来たし、自分の力で旅行する力がついた。
- * 短い間でしたが異文化に触れることができずごく楽しかったです。短期間だったので自分から積極的にいろんなことに参加したり遊びに行ったりできた気がします。オーストラリアのよかった所を日本でも続けていけたらいいなと思います。
- * 参加してよかったと思うのは、英語の力が前よりついたということです。とくにリスニングは良くなったと思います。前は、何を言っているか分からなくて、聞き流していた英語の歌の歌詞も、歌詞カードなしで何を言っているか分かるようになったし、日本に帰ってきて、外国の映画を字幕かふきかえなしで観たくなりました。また他の国の留学生との交流の中で世界にはいろんな人たちがいて、いろんな考え方があるのだということを知りました。
- * 行ってよかったと思う。考え方とか色々な面でいい影響を受けた。

- * 岐大のサマスク生として、何かあったらすぐに相談できる仲間とともに行けたのは本当に良かったと思います。自分はこの留学が始めての海外、初めての飛行機だったので、心強かったです。英語学習はもちろん、精神的な面でも多くのことを得られたと感じています。近い将来、また海外に行けたらいいなと思っています。
- * 参加して本当によかったと思います。また、行きたいと思えるいい国でした。最初は、不安も多かったけれど、言葉がうまく通じなくても、どうにかなるということがわかりました。
- * 日本ではできないことをたくさん経験できてよかったです。日本を1ヶ月離れてみて気づくことがたくさんあって、勉強になったし、他国とのちがいや日本の良さ・悪さを発見できておもしろかったです。留学に参加したことによってやりたいことがたくさんできたり、自分がこれからどのように生きていくかを考えさせられて、いい経験になったと思います。オーストラリアでの生活は、初めてな事ばかりで、不安だったり怖い思いもしたけど、自分を成長させてくれた気がします。
- * 少しだけ自発的になれたような気がしました。
- * もっと早い時期に行ついたら良かったと思いました。
- * とても有意義な5週間でした。単位がほしかったです(他大学4単位)。行ってよかったです。
- * 短期留学をととても楽しませて頂きました。自分で行動することができてうれしく思うのと同時にこれからどうしていきたいか考えようと思います。
- * 最初、一番不安だったのはホームステイが大丈夫かということだったが、ホストファミリーはみんないい人ばかりなので心配して損したって感じだった。授業も先生が言っていることはなんとなくわかるし、分からなくても先生、クラスメートが優しいのでちゃんと教えてくれた。人の優しさや、人と接することの楽しさがわかるのでこの留学はいい経験だと思う。

- * 語学だけでなく、いろんな意味で良い刺激になったし、たくさんの方が学べました。ただ、グリフィスのプログラムが一応10週間で一区切りという事もあり、できれば前の5週間から参加したかったです(私のクラスは、ほとんどの人が前の5週間と同じメンバーで、即ち友達のグループが出来上がっていて、最初はあまり他の子と話すことが出来なかったです)。

7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

- * とにかく行動することが大事なあとだと思います。
- * 本当に時間がないので少しでも気になった場所は誰でもいいので聞いて行ってみたいほうがいい。
- * バス(聞いた話だと一部の電車もだが)のアナウンスが無くて不便。どうしても下りる場所が分からなければ、乗る時に運転手に聞くといい。
- * スーツケースは25kgくらいまでなら大丈夫です。運が悪いとアレだけど・・・。
- * 行く前に全く勉強しなかったが、やはり日常会話ができる程度の勉強はしていった方が良さそう。お金はあるだけもってった方が良さそうだと思います。
- * 雨が降ると結構寒い。
- * 現金が楽なので現金を多めに持って行った方が良さそう。
- * 5週間も海外にいられるのは、きっと一生のうちでも数少ないことだと思います。5週間もあるので、きっといろんなことができると思います。ただ単に、バカンスの様な感覚で土日リゾートへたくさん行くのもいいですが、実際に向こうの生活を体験してみるという意味で、スーパーで買い物をしたり、街のカフェでのんびりしてみたりするのもいいかもしれません。また是非とも「英語を学ぶ」とか「異文化を学ぶ」といった目標を持って行ってください。目標を持って行けば、より意義のある留学になると思います。
- * とにかく色々な人と話をしてみてください。
- * わからないのがあたりまえ、なんでも聞けばなんとかなりそうです。バスで降りる駅がわからなくてもドライバーに「〇〇で降りたいから降ろしてー」と言っておけば、Bellを押さなくても(押せなくても)ちゃんと降ろしてくれます。留学生などの外国人が多い土地なのか、町の人たちも私たちに相手にすることに慣れていて、ちょっとずうずうしいくらいでOKだと思います。Brisbane Library Cardはきれいで記念になるから作った方がいいよー。PassportとHomestay Detailが載った大学からのLetterがあれば、すぐに作れます。
- * たぶん毎年いっていると思いますが、モートン等は、絶対行くべきです。そこでみんなまでホエールウォッチングのツアーに参加したのですが、楽しいですが、乗りものよりのある人にはとってつらいので、やめたほうが良いかもしれません。
- * いろんな経験をして自分を成長させるきっかけにしてください。ある程度想定できる会話を事前に英語で話せるようにしておくのがいいと思います。
- * 3年生でも行こうと思えばいけるけど、将来を考えるキッカケとしたいのなら、1年生の段階で行っておくべきだと思います。
- * 上着は必須です。
- * 自分から調べ行動してください。まかせきりの日本人のままでは半分しか楽しめません。
- * 行く前は絶対に不安なところがあると思うけど、意外に全てうまくいって、何でも楽しくなると思います。
- * 少しでも行こうかな?って思う気持ちがあるなら、是非、参加するべきだと思います。

8. お礼の手紙について (e-mail を含む)

- ・出した 7人
- ・出していない 8人
- ※電話した、出て行くときに置いておいたというメモあり。

岐阜大学夏期短期留学（サマースクール）担当者一覧

部 局	氏 名	備 考
留学生交流委員会 委員長 教育担当理事	佐々木 嘉 三	総括責任者
留学生交流委員会 副委員長 留学生センター長	武 脇 義	副総括責任者・エクスカージョン引率・日本事情講義
教育学部	柳 沼 良 太	エクスカージョン引率
地域科学部	笠 井 千 勢	エクスカージョン引率
医学系研究科・ 医学部	高 橋 優 三	医療担当・歓送迎会担当
工学部	山 本 秀 彦	会計監査
応用生物科学部	芳 村 了 一	エクスカージョン引率
連合大学院	篠 田 善 彦	
留学生センター	太 田 孝 子	派遣コーディネーター・広報担当
	森 田 晃 一	受入コーディネーター・エクスカージョン引率・日本事情講義
	橋 本 慎 吾 ★	日本語総括・日本事情講義
	土 谷 桃 子 ★	受入コーディネーター・歓送迎会担当・エクスカージョン引率・広報担当
	宮 谷 敦 美 ★	宿舎担当・日本語授業・国際理解授業担当・エクスカージョン引率

★は、留学生交流委員会委員でない者を示す。

編集後記

今年の6、7月は比較的過ごしやすく、岐阜を訪れたサマースクール（受入）の学生にとって幸いであった。しかし、気候に恵まれた反面、アンケート集計結果分析でも述べたように、今回は怪我人・病人が例年になく続出するサマースクールとなった。今までは場当たりにしか対処してこなかった怪我人・病人への対応を、ある程度マニュアル化しなければいけないと強く反省した。来年度以降の課題であるが、このような反省の積み重ねが、今後の岐大サマースクールの発展につながると確信している。

サマースクール終了後も日本に滞在し続けた参加学生が少なからずいたようで、数週間後にひょっこり岐大に顔を見せて教職員一同が驚かされるという愉快的出来事もあった。今回のサマースクール参加学生が、いつの日かまた岐阜の地を訪れてくれるのを楽しみに待っている。

(つ)



今年のサマースクール（派遣）は、4月の説明会時点ではオーストラリア（グリフィス大学）とアメリカ（ポートランド州立大学）の2カ所での開催を計画していたのだが、アメリカへの参加希望者が少なかったためオーストラリア・グリフィス大学に合流、計15名の参加となった。英語講師に問題が発生したり、8月1日付けで留学生課の強力な担当者飯沼千代香氏が異動になるなど、幾つかの不安要素を抱えたまま参加者を見送る事になった。出発前はあまり纏まりの感じられなかった参加者も、それぞれの方法で問題に対処し、様々な異文化交流を重ねて帰ってきた。直接お礼を言うことのできないホストファミリーの皆様や学生たちが行く先々でお会いした方々に、私も“お世話になりました”と伝えたい気持ちで一杯である。

サマースクール（派遣）の計画から実施までを支えてくださっている、留学生課と生協の伊藤氏にも感謝を申し上げたい。参加者がオーストラリアに対して少し開いた目を、自分自身や大学の中に向け直して見てほしいと願っている。

(お)

岐阜大学夏期短期留学

サマースクール 2007 報告書

〒501-1193	岐阜市柳戸 1-1
発行年月日	2007年12月
発行者	岐阜大学
電話	058-293-2142
F A X	058-293-2143
印刷	株式会社コムラ



Gifu University International Student Center - Gifu University International Student Center

